

第2章 こども・若者や子育て家庭を取り巻く状況

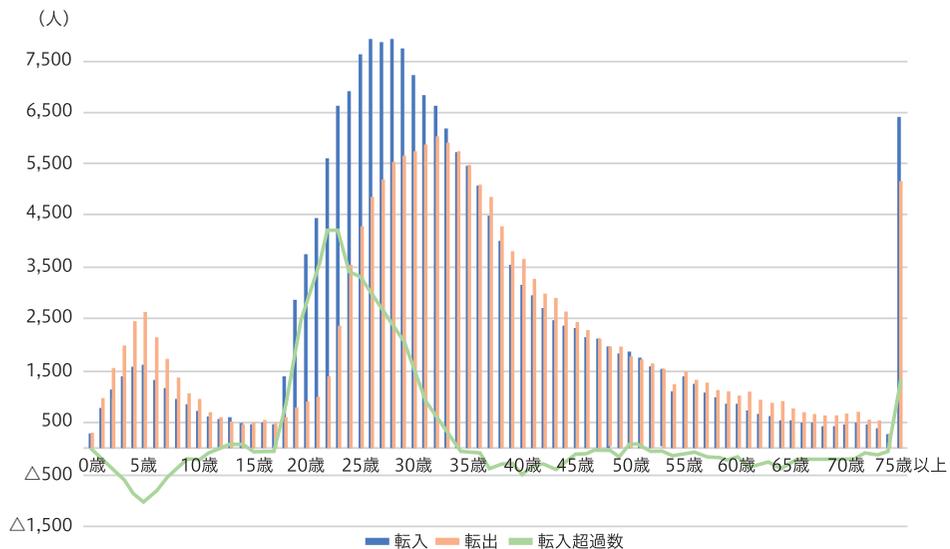
- 1 本市の社会状況
- 2 こども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況
- 3 こども・若者の成長・発達段階における状況
- 4 こども・若者の“声”を聴く取組

1 本市の社会状況(1/9)

(1)人口の推移

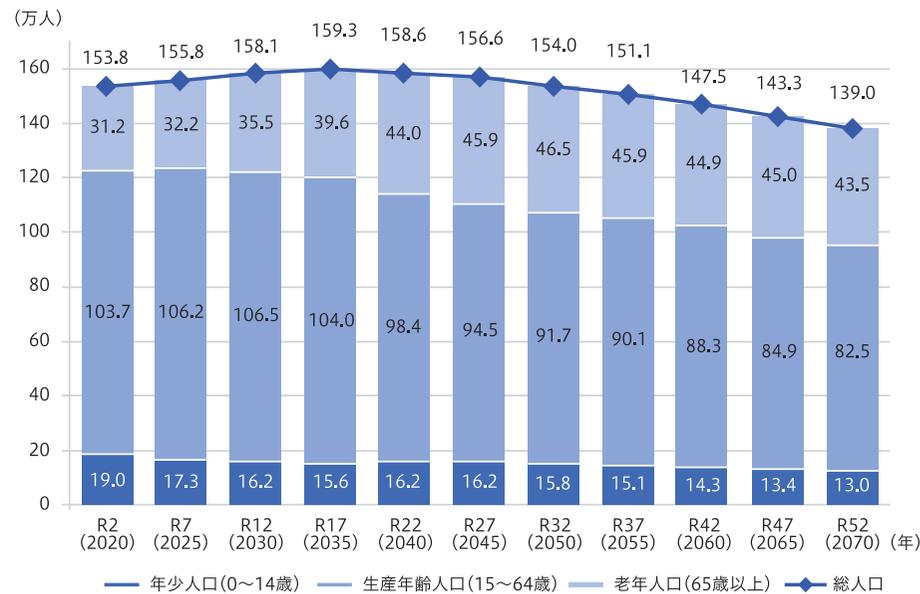
本市の人口は、若年世代の転入超過等を背景に令和2(2020)年4月に153.8万人となり、令和17(2035)年まで増加を続けることが想定されています。一方で、年少人口については令和2(2020)年にピークを迎え、高齢化の急速な進展も見込まれていることから、本市の人口構成が大きく変化していくことが想定されます。

図表1 年齢各歳別転入・転出人口及び転入超過数(市)



※転入人口・・・5年前の常住地が市外で現住地が市内の人口
 ※転出人口・・・5年前の常住地が市内で現住地が市外の人口
 資料:総務省 国勢調査

図表2 将来人口推計(市)



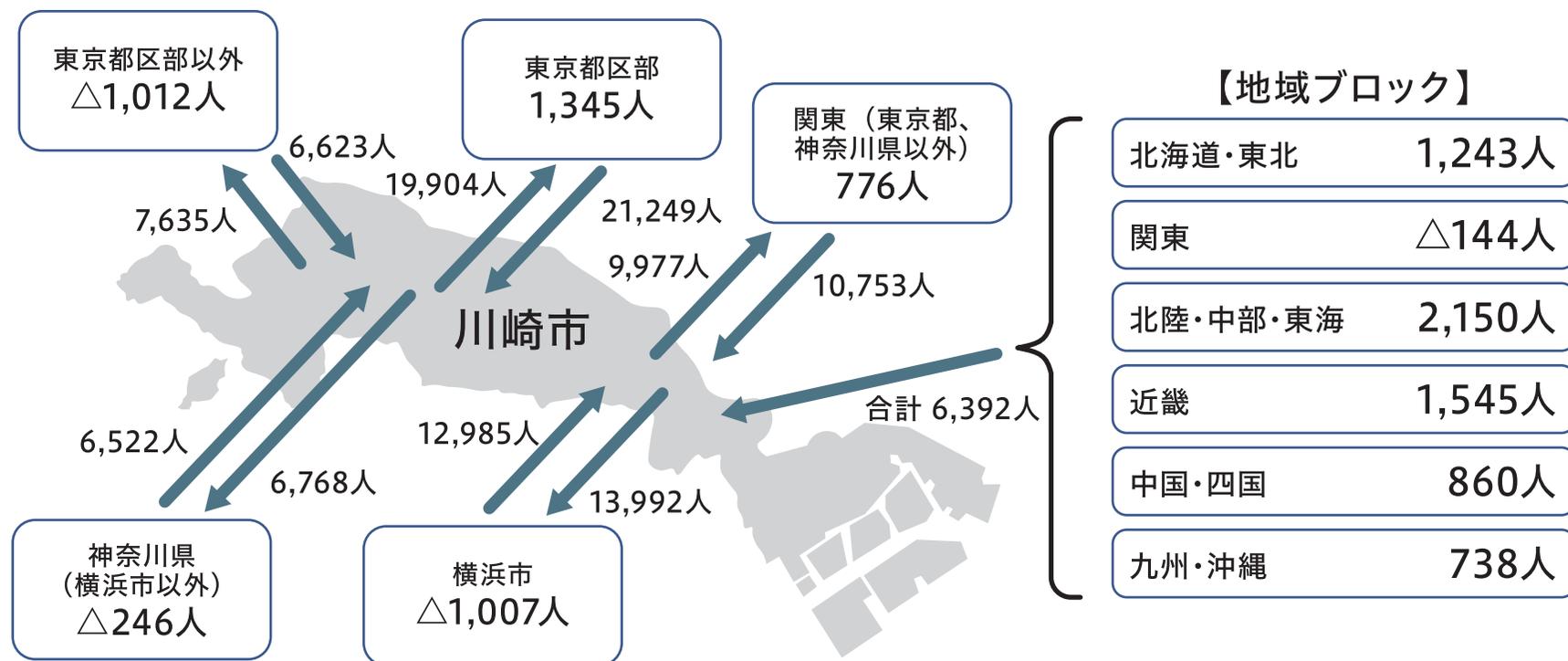
資料:総務省 国勢調査、川崎市総合計画改定に向けた将来人口推計(令和7(2025)年5月)

1 本市の社会状況(2/9)

(1)人口の推移

転入前・転出後の住所地を地域ブロック別にみると、関東以外のすべての地域ブロックに対して、転入超過となりました。関東のうち東京都及び神奈川県について見ると、東京都区部との関係では、1,345人の転入超過、東京都区部以外との関係では、1,012人の転出超過となり、その差引きとして、東京都に対しては、333人の転入超過となりました。また、横浜市との関係では、1,007人、神奈川県(横浜市以外)との関係では、246人の転出超過となり、その結果として、神奈川県に対しては、1,253人の転出超過となりました。東京都、神奈川県以外の関東に対しては、776人の転入超過となりました。

図表3 地域ブロック及び東京都、神奈川県との人口動態(令和6(2024)年)



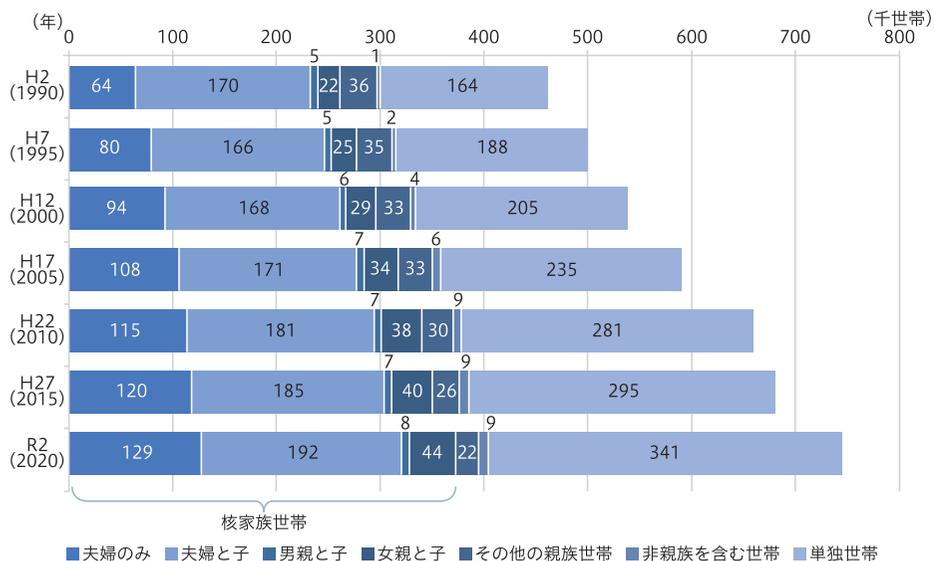
資料:川崎市の人口動態(令和6(2024)年)報告書

1 本市の社会状況(3/9)

(2) 核家族化

平成2(1990)年から、30年間の核家族世帯(夫婦のみ、夫婦と子、男親と子、女親と子)の変化を見ると、平成2(1990)年の約26万世帯から令和2(2020)年には約37万世帯に増えています。また、単独世帯も一貫して増加しており、令和2(2020)年には約34万世帯となっています。

図表4 家庭類型別世帯数の推移(市)

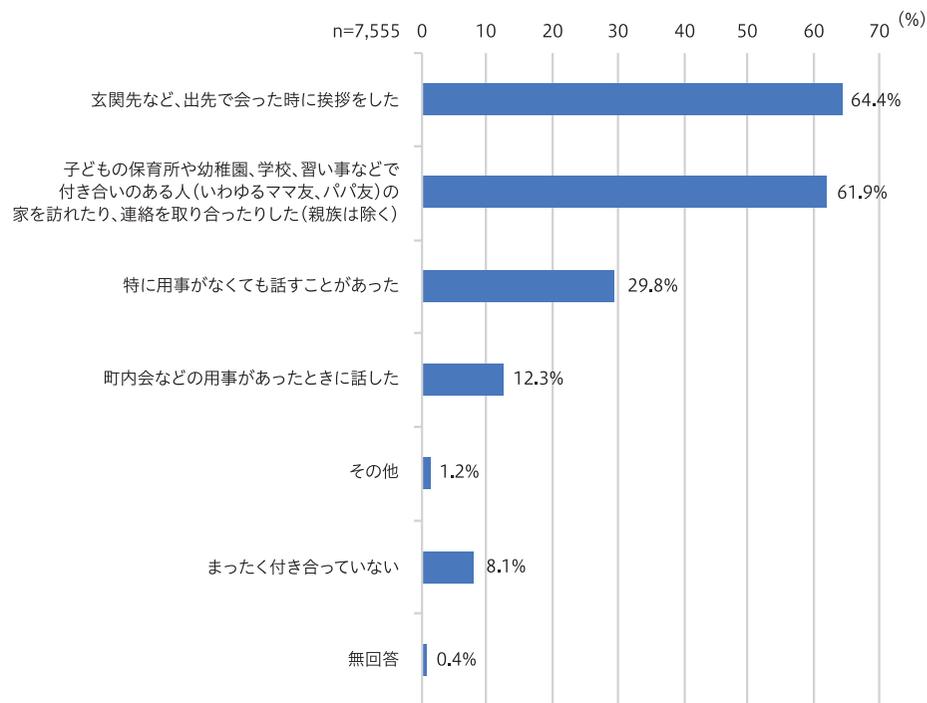


資料:総務省 国勢調査

(3) 地域との関係の希薄化

川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)によると、この1か月間での近所の人との交流の程度は、「玄関先など、出先で会った時に挨拶をした」が64.4%で最も高くなっています。一方、8.1%は「まったく付き合いがない」と回答しており、一部の人は近所付き合いの程度が低い状況となっています。

図表5 近所付き合いの程度(市)



※複数回答
資料:川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)

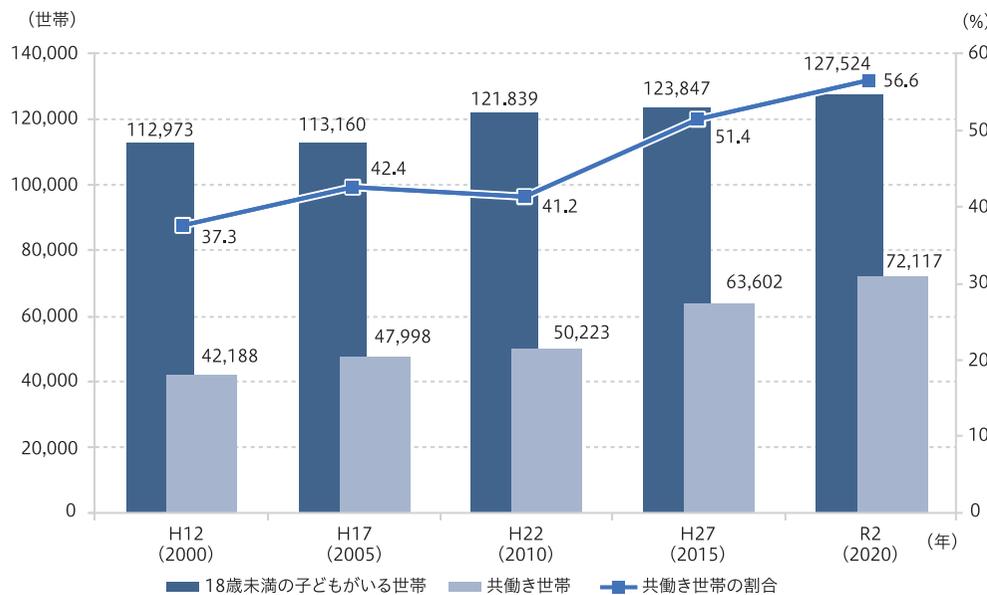
1 本市の社会状況(4/9)

(4) 共働き世帯の増加

本市の18歳未満の子どもがいる世帯のうち、親が共に働いている世帯の令和2(2020)年の構成比は56.6%で、半数以上となっています。

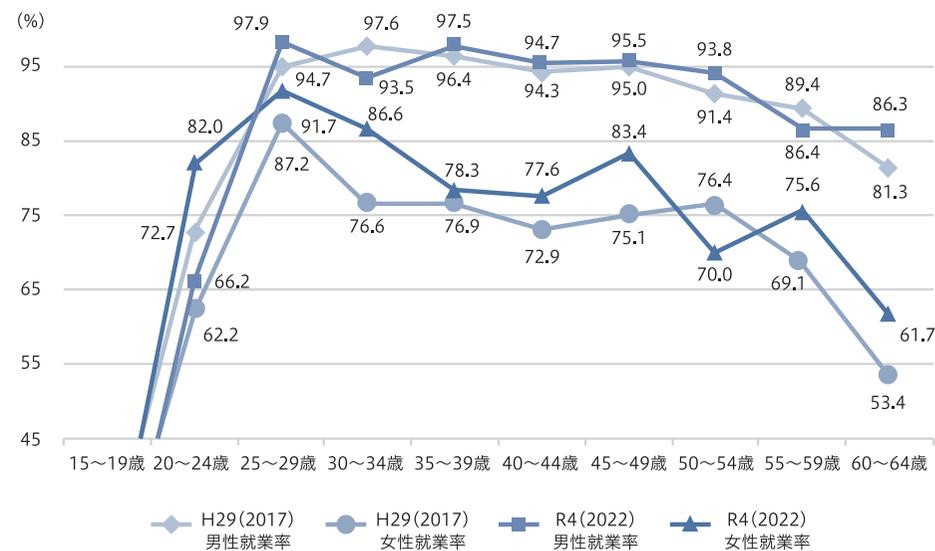
本市の年齢階級別就業率は、多くの年齢層において平成29(2017)年から令和4(2022)年にかけて上昇していますが、依然として男性に比べ、女性の就業率が低い傾向にあります。

図表6 総世帯数(子どもが18歳未満)と共働き世帯数の推移と割合(市)



資料:総務省 国勢調査

図表7 年齢階級別就業率(市)



資料:川崎市統計書

1 本市の社会状況(5/9)

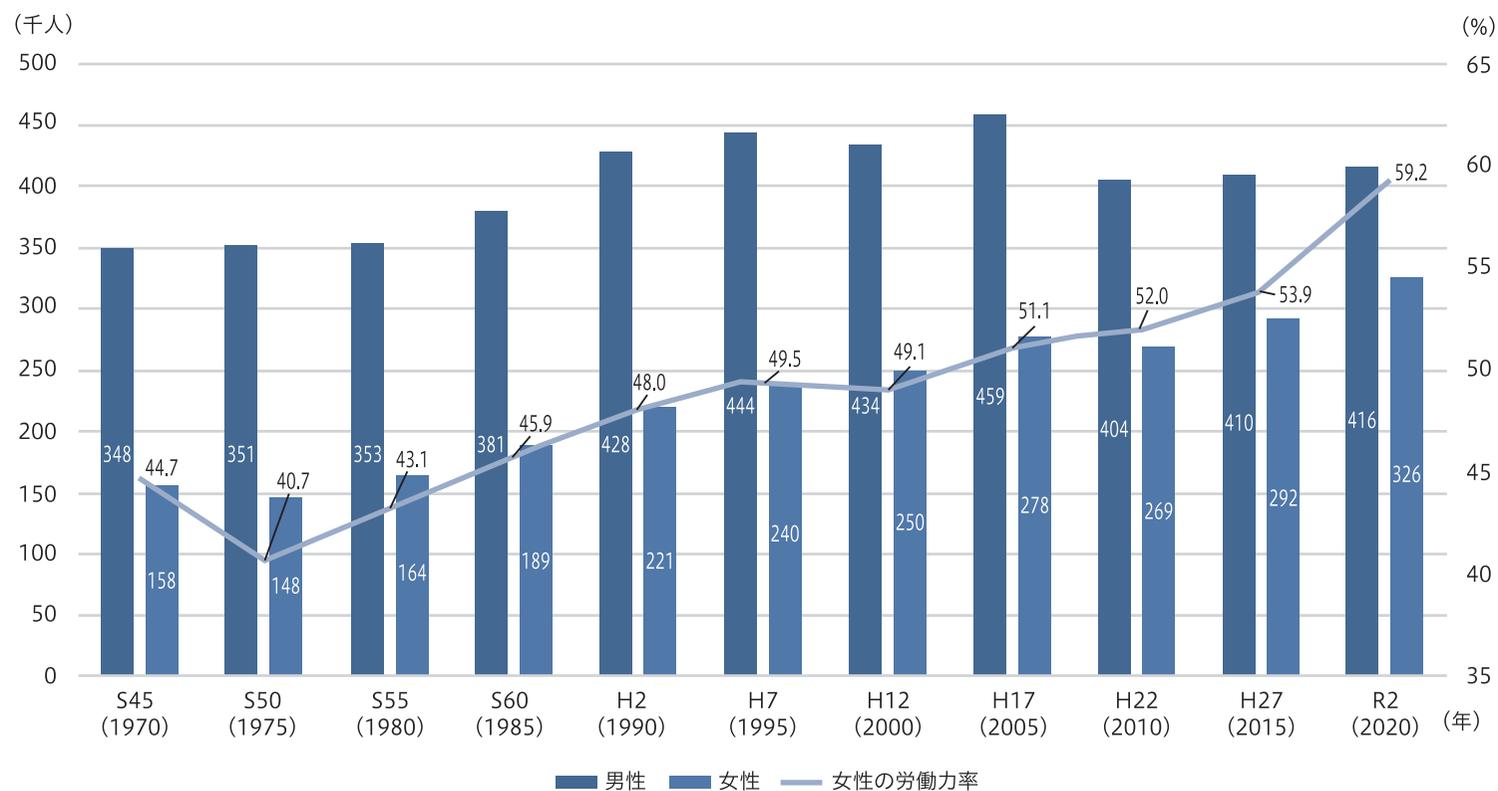
(4) 共働き世帯の増加

女性の労働力人口※1は平成17(2005)年から平成22(2010)年にわずかながら減少しましたが、平成27(2015)年以降は再び増加しました。女性の労働力率※2は上昇傾向にあり、令和2(2020)年には59.2%となりました。

※1) 15歳以上の就業者(従業者と休業者を合わせたもの)と完全失業者(就業できず、求職活動の実績がある者)を合わせたもの

※2) 15歳以上の人口に占める労働力人口の割合

図表8 労働力人口と労働力率の推移(市)



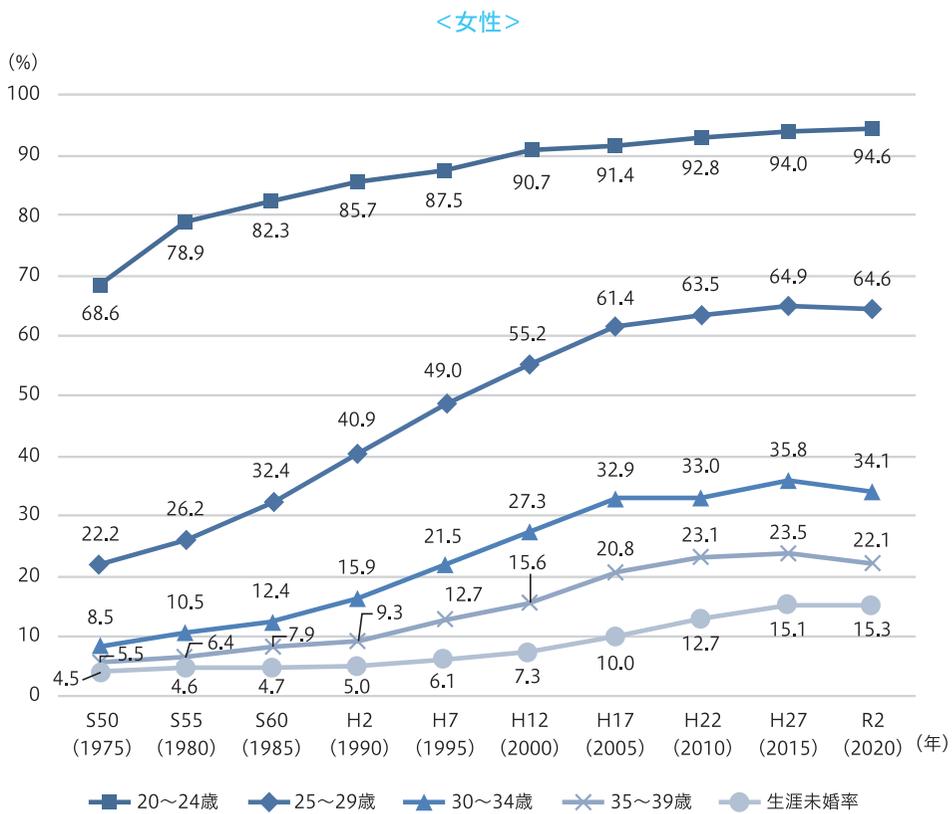
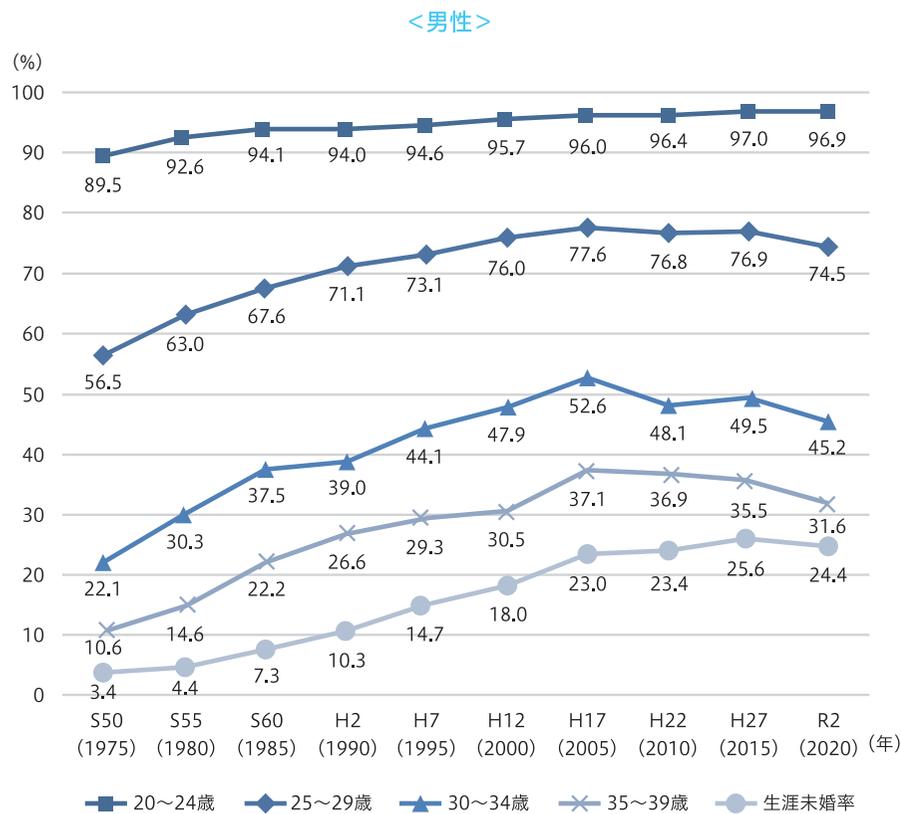
資料:総務省 国勢調査

1 本市の社会状況(6/9)

(5) 未婚化・晩婚化

本市の未婚率は、すべての年齢層において昭和50(1975)年から令和2(2020)年にかけて概ね上昇傾向にあります。一部の年齢層では横ばい・下降傾向が見られます。

図表9 未婚率の推移(市)



資料:総務省 国勢調査

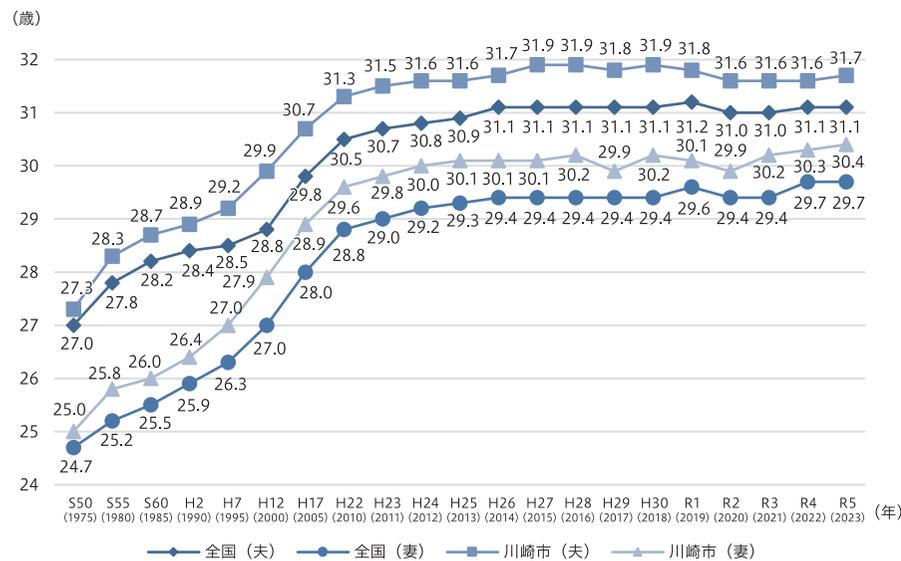
1 本市の社会状況(7/9)

(5) 未婚化・晩婚化

本市の平均初婚年齢は令和5(2023)年に夫が31.7歳、妻が30.4歳となり、全国の水準と比較して晩婚化が進行している状況にあります。

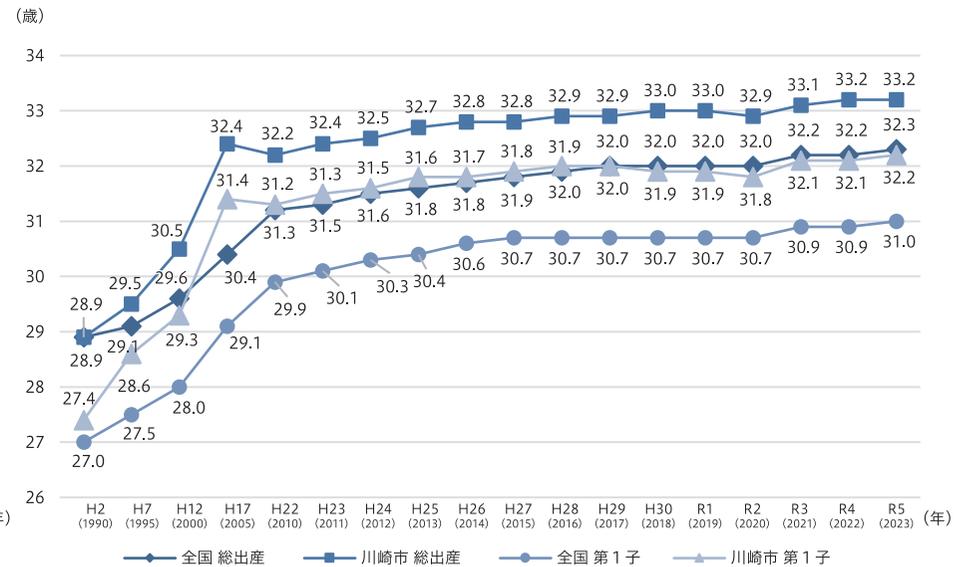
本市の平均出産年齢は令和5(2023)年に総出産平均年齢が33.2歳、第1子平均出産年齢が32.2歳となり、全国の水準と比較して晩産化が進行している状況にあります。

図表10 平均初婚年齢の推移(国・市)



資料:厚生労働省 人口動態調査

図表11 平均出産年齢の推移(国・市)



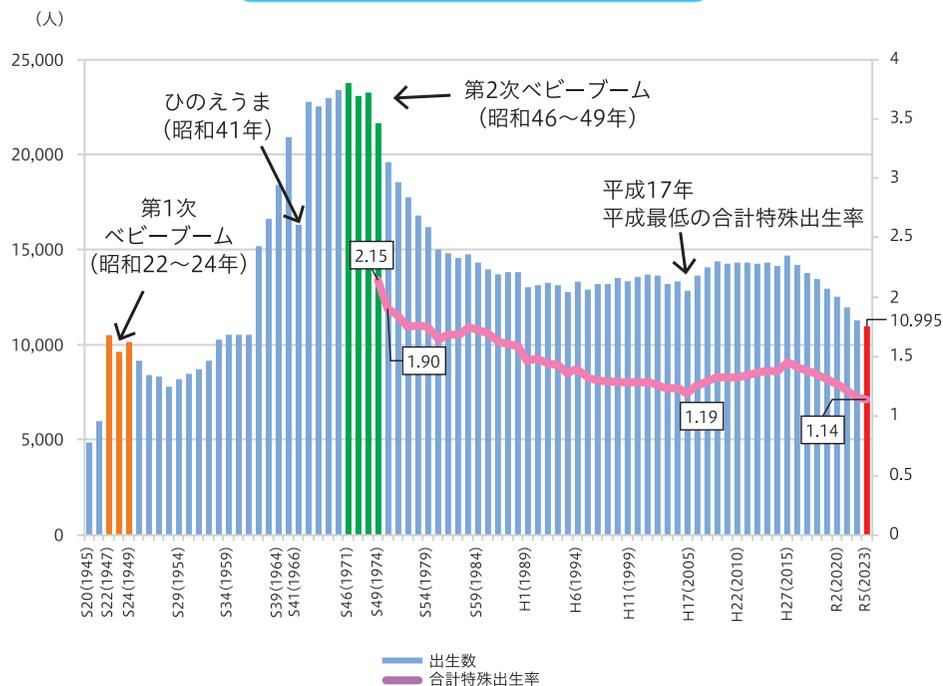
資料:厚生労働省 人口動態調査

1 本市の社会状況(8/9)

(6) 少子化

平成19(2007)年以降、本市の出生数は14,000人台で推移していましたが、平成29(2017)年に14,000人を下回り、減少傾向にあります。合計特殊出生率は平成17(2005)年に平成最低となり、以降上昇傾向にありましたが、平成27(2015)年以降は減少し、令和5(2023)年には過去最低となりました。

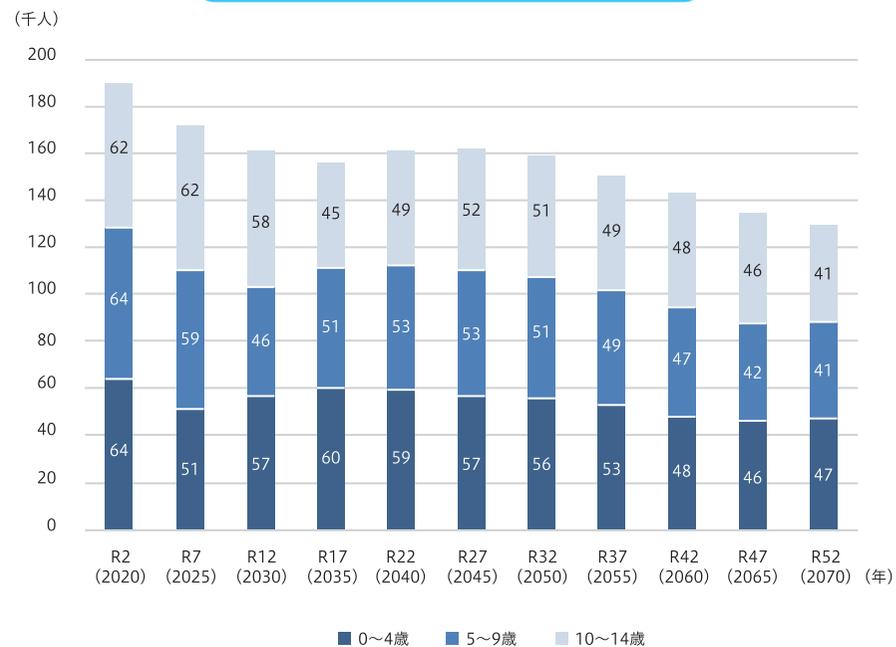
図表12 出生数と合計特殊出生率の推移(市)



資料:厚生労働省 人口動態調査、川崎市健康福祉年報

0～14歳までのこどもは令和2(2020)年に約19万人でピークを迎え、以降減少傾向となることが見込まれています。

図表13 0～14歳までのこどもの推移・推計(市)



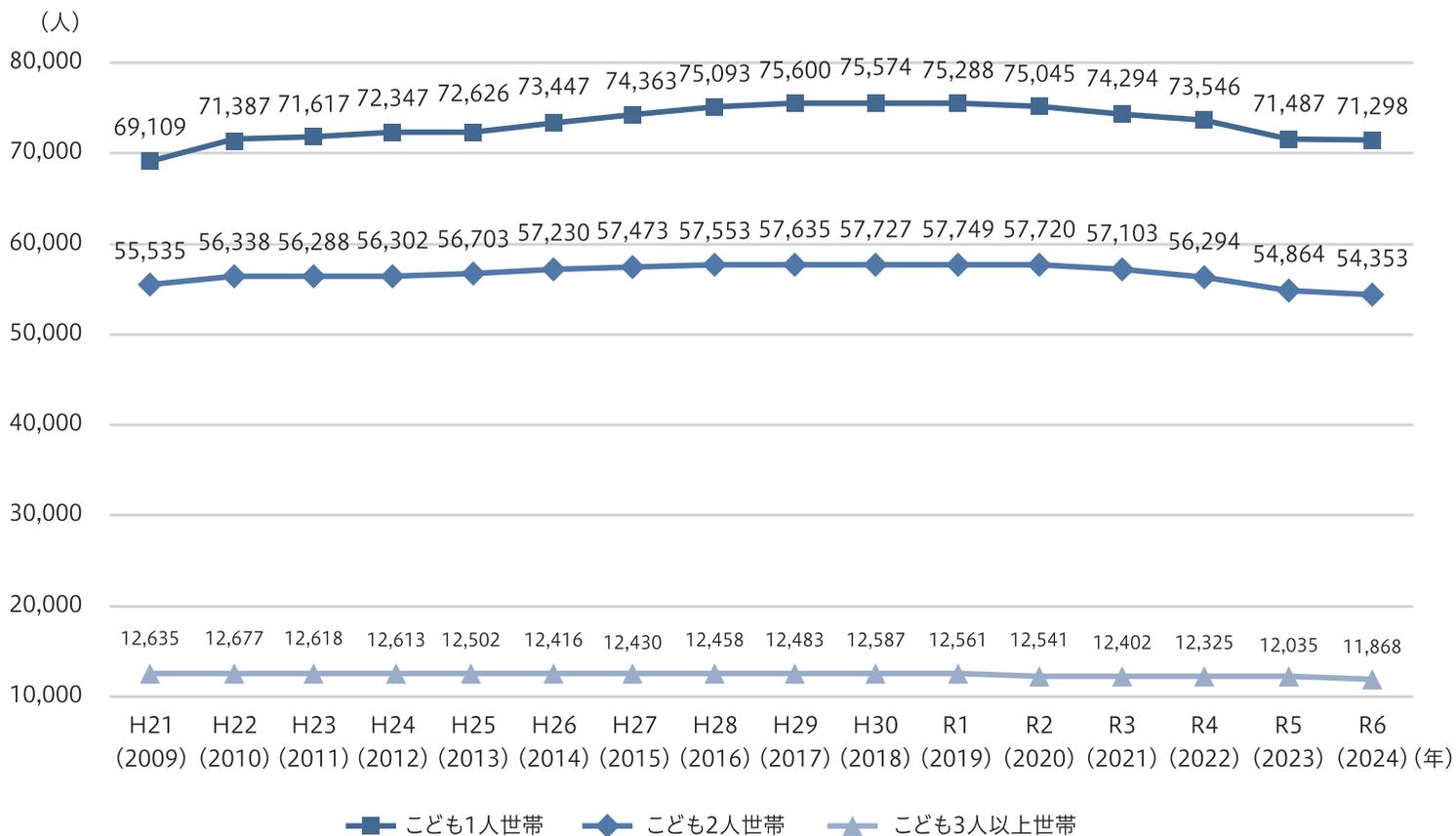
資料:総務省 国勢調査、川崎市総合計画改定に向けた将来人口推計(令和7(2025)年5月)

1 本市の社会状況(9/9)

(6) 少子化

こども3人以上世帯は、こども1人世帯、こども2人世帯と比較して大幅に少ない状況が継続しています。

図表14 市内における子育て世帯数(市)



資料:こども未来局調べ

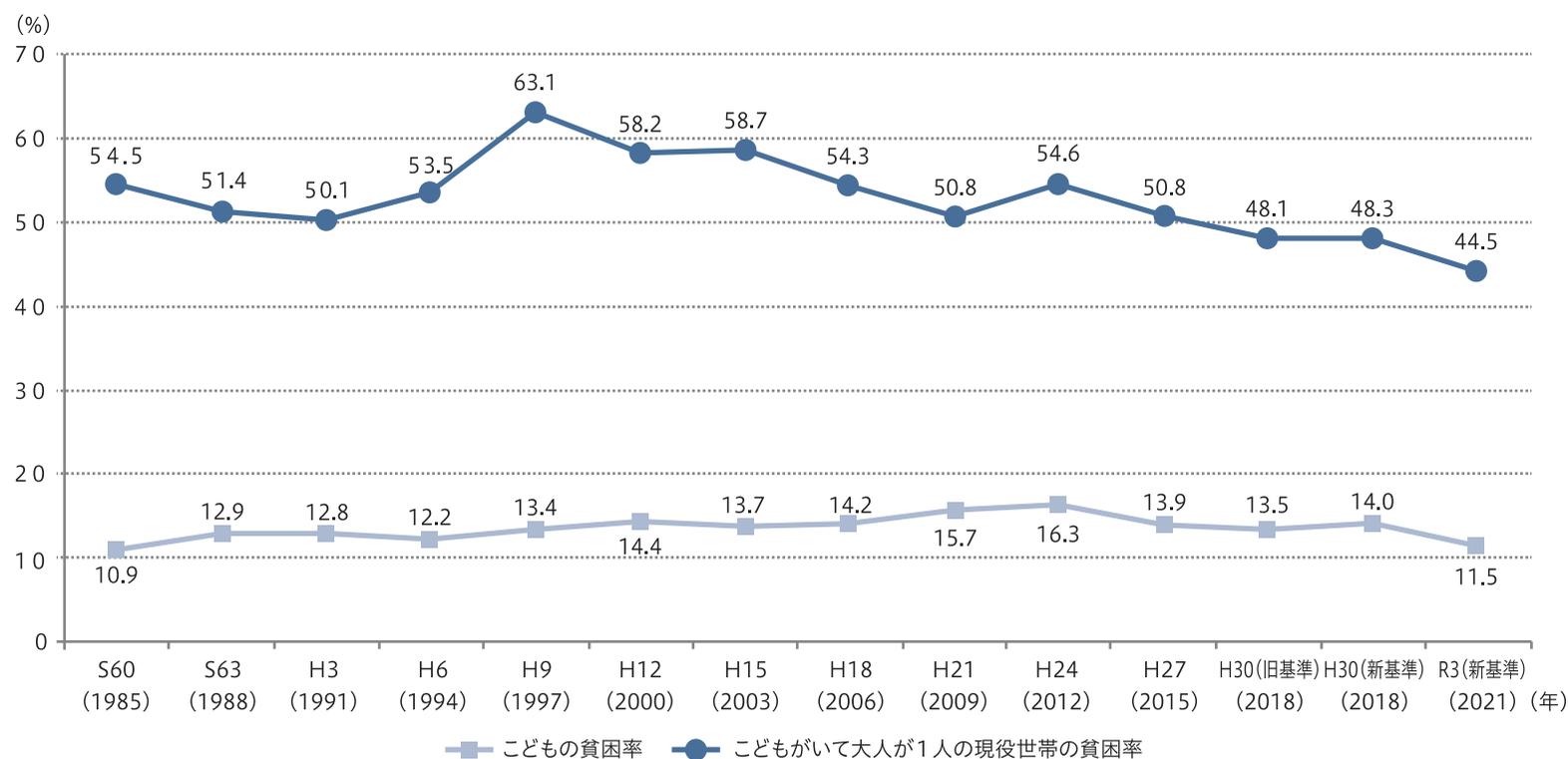
2 子ども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(1/15)

(1) 子どもの貧困に関する状況

平成30(2018)年時点の我が国の「子どもの貧困率」は13.5%で、約7人に1人の子どもが相対的貧困の状態にあるとされた中で、令和3(2021)年時点は、11.5%と改善したものの、依然として約9人に1人の子どもが相対的に貧困の状態にあります。

特に、大人一人で子どもを育てる世帯の貧困率は44.5%と極めて高い状況となっています。

図表15 子ども・貧困率(国)



資料：厚生労働省 国民生活基礎調査

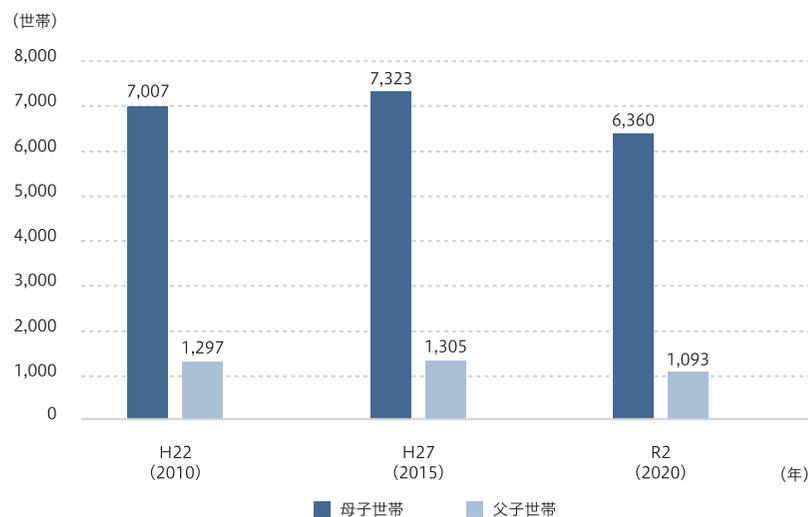
2 子ども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(2/15)

(2)ひとり親家庭を取り巻く状況

本市における母子世帯及び父子世帯の世帯数の推移を見ると、令和2(2020)年に母子世帯数は6,360世帯、父子世帯数は1,093世帯となりました。

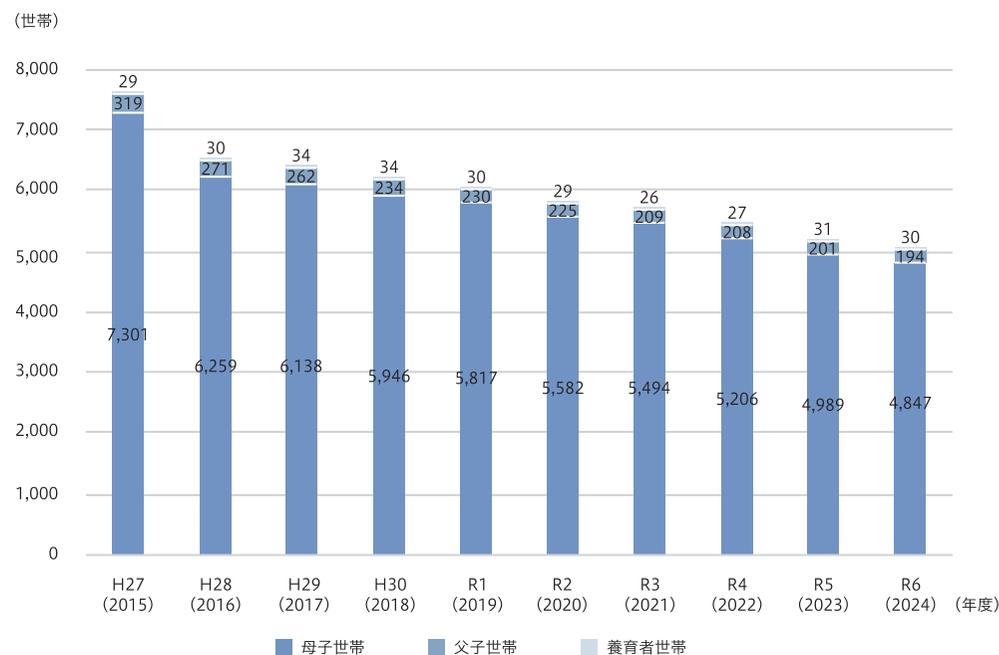
本市における児童扶養手当受給世帯数の推移を見ると、令和7(2025)年3月末の受給世帯数は5,071世帯(母子世帯4,847世帯、父子世帯194世帯、養育者世帯30世帯)となりました。

図表16 母子世帯数・父子世帯数(市)



※他の世帯員(20歳以上の子どもを除く。)がいる母子・父子世帯を含む。
資料:総務省 国勢調査

図表17 児童扶養手当受給世帯数(市)



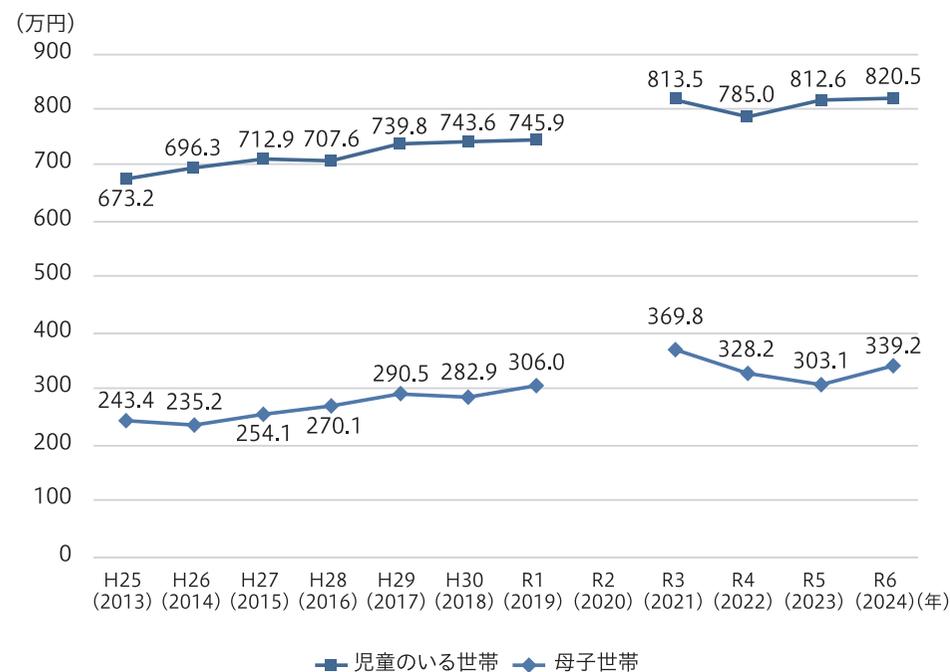
資料:子ども未来局調べ

2 子ども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(3/15)

(2)ひとり親家庭を取り巻く状況

国民生活基礎調査における我が国の所得状況を見ると、令和6(2024)年の児童のいる世帯の平均所得は820.5万円ですが、母子世帯では339.2万円となっており、母子世帯の平均所得は児童のいる世帯の平均所得と比較し低い状況が継続しています。

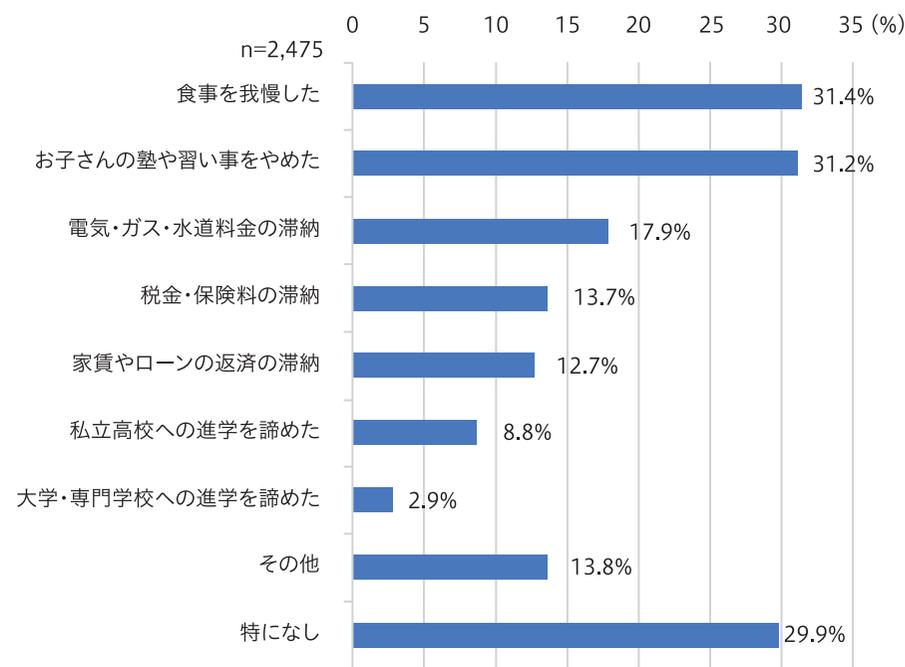
図表18 児童のいる世帯・母子世帯の平均所得(国)



※令和2(2020)年は調査なし。
資料:厚生労働省 国民生活基礎調査

川崎市ひとり親家庭に関するアンケート調査(令和7(2025)年)によると、過去1年間の日常生活における経済的な困りごとでは、「食事を我慢した」、「お子さんの塾や習い事をやめた」が30%を超える状況となっています。

図表19 過去1年間の経済的な困りごと(市)



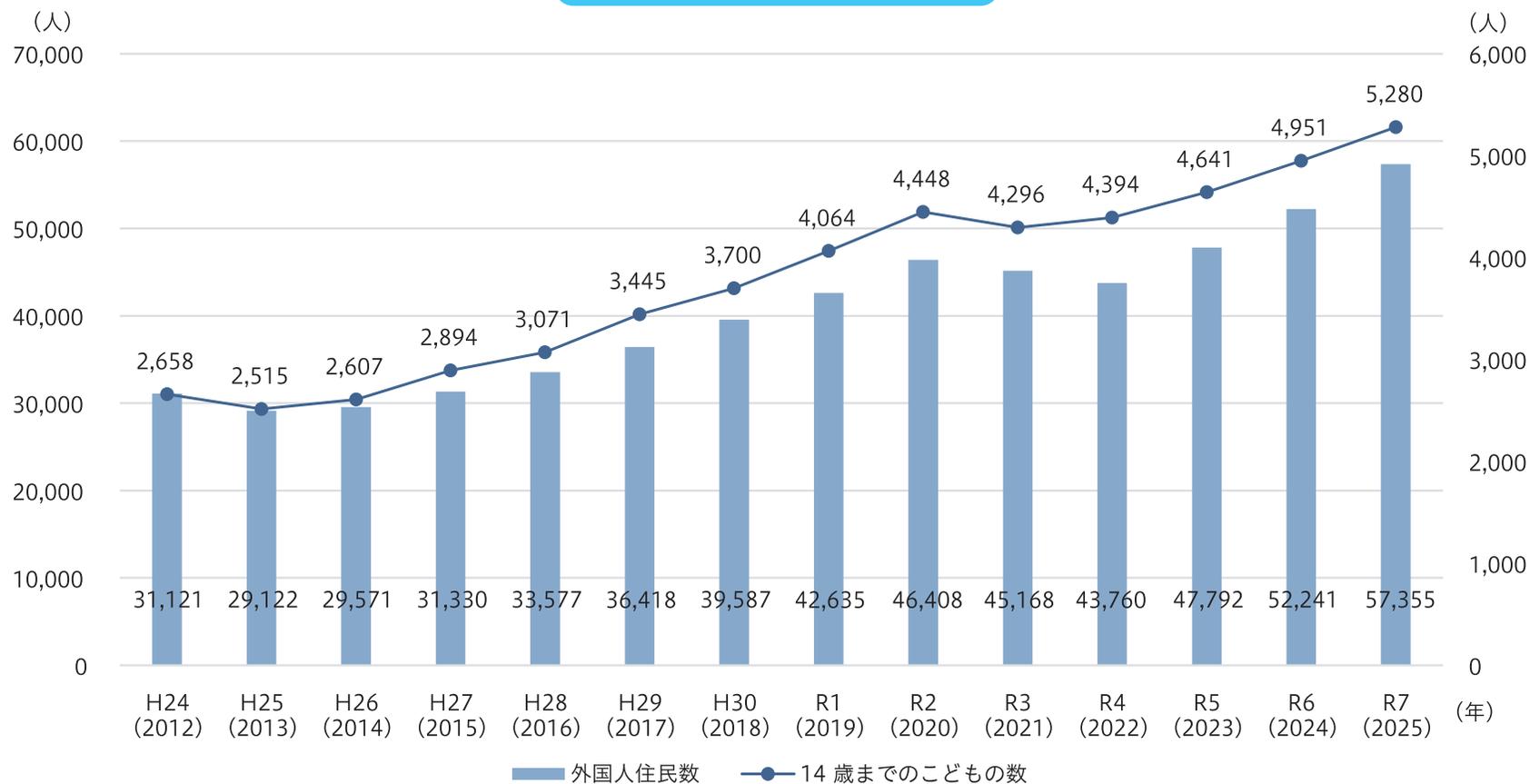
※複数回答
資料:川崎市ひとり親家庭に関するアンケート調査(令和7(2025)年)
調査対象:児童扶養手当受給資格者、ひとり親家庭等医療費助成制度対象者

2 こども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(4/15)

(3) 外国人に関する状況

外国人住民数はこの10年で約1.8倍となり、令和7(2025)年で57,355人となっています。うち、0～14歳までのこどもの数も、10年で約1.8倍となっています。

図表20 14歳までの外国人住民数の推移(市)



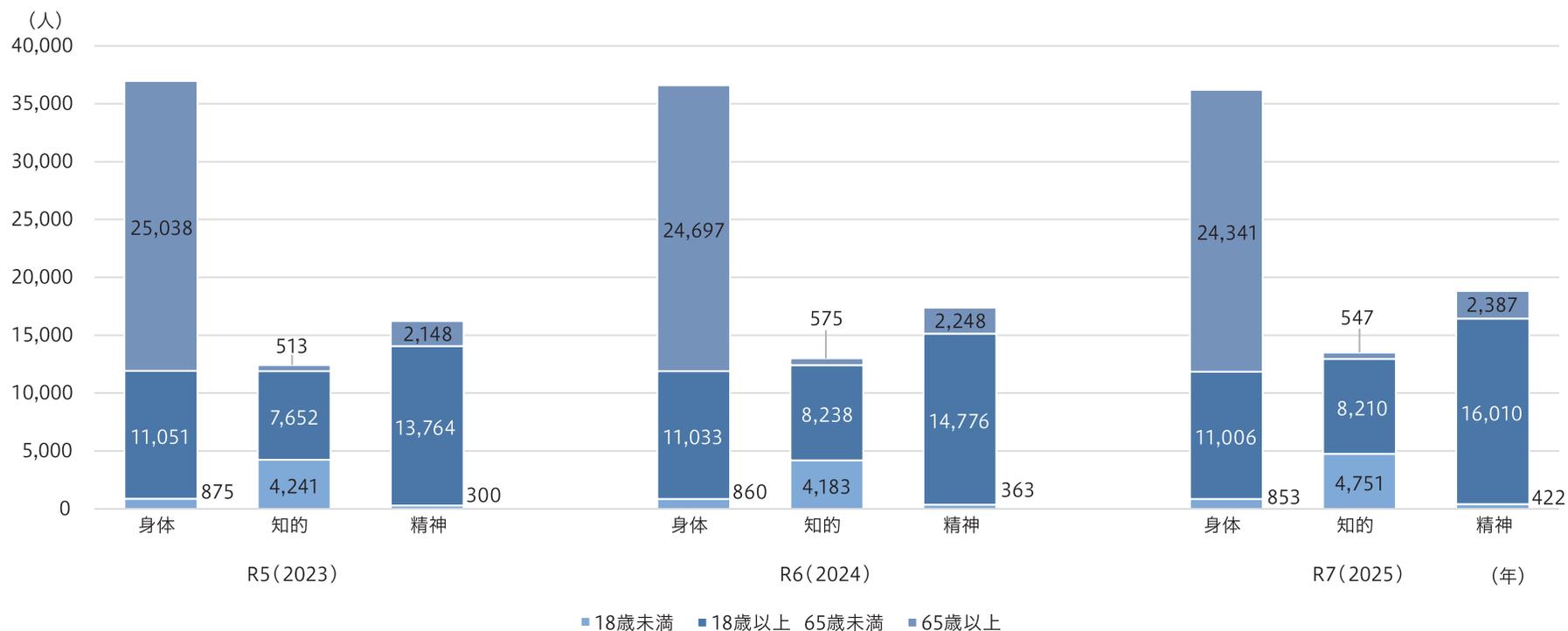
資料:川崎市管区別年齢別外国人住民人口

2 子ども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(5/15)

(4) 障害に関する状況

本市における各障害者手帳所持者数は、身体障害が減少傾向である一方、知的障害と精神障害が増加傾向にあり、令和7(2025)年現在で身体障害は36,200人、知的障害は13,508人、精神障害は18,819人となっています。

図表21 身体・知的・精神障害児・者の推移(市)



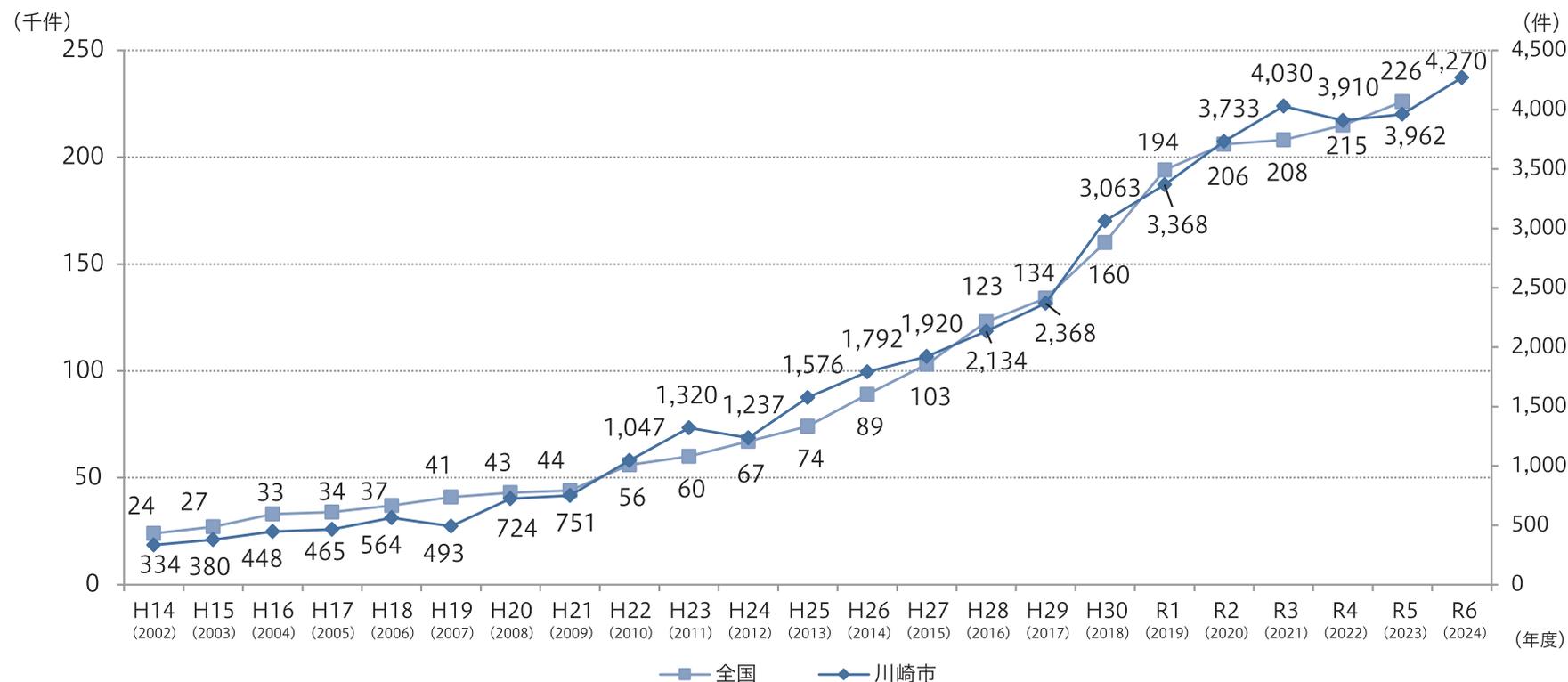
※知的障害は、判定のみ受けて療育手帳を所持していない方も含む。
資料:健康福祉局調べ

2 子ども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(6/15)

(5) 児童虐待に関する状況

本市の児童相談所が令和6(2024)年度に受理した児童虐待相談・通告件数は4,270件で、平成12(2000)年の児童虐待の防止等に関する法律が施行されて以降、最も多い件数となっています。令和6(2024)年度について、虐待種別内訳は、心理的が57.0%で最も高く、次いでネグレクトが22.4%となっています。

図表22 児童虐待相談・通告件数(国・市)



※市の件数については、令和6(2024)年1月に子ども家庭庁から示された解釈に基づき、令和4～6年度については、受理後の調査等の結果、明らかに虐待行為がないと判断されたケース(虐待非該当ケース)を、相談・通告件数から除外している。図表23～25も同様。

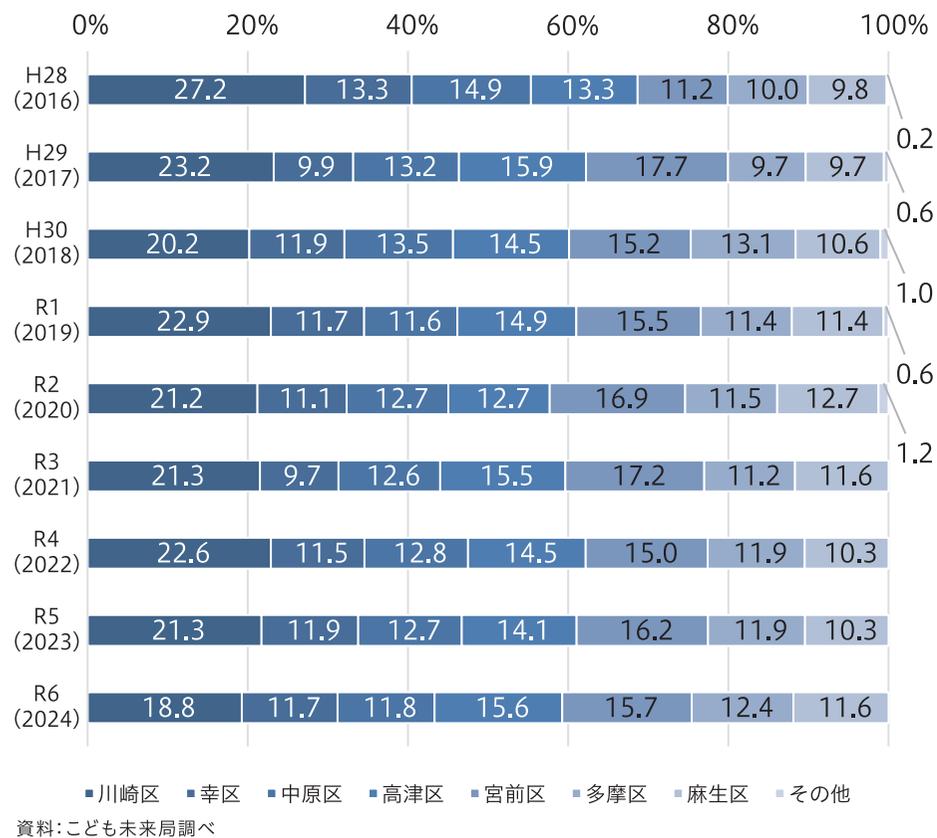
※国の件数については、児童相談所における児童虐待相談対応件数

資料：子ども未来局調べ(市)、令和5年度児童相談所における児童虐待相談対応件数(国)

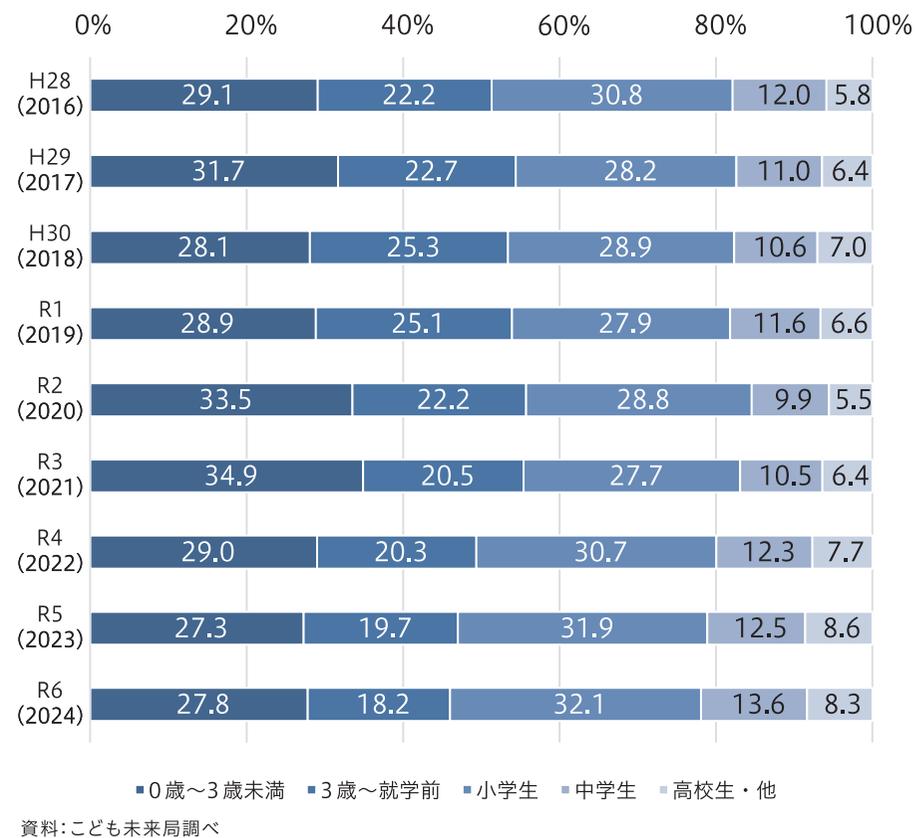
2 こども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(7/15)

(5) 児童虐待に関する状況

図表23 児童虐待相談・通告件数の区別内訳(市)



図表24 児童虐待相談・通告件数の年齢別内訳(市)

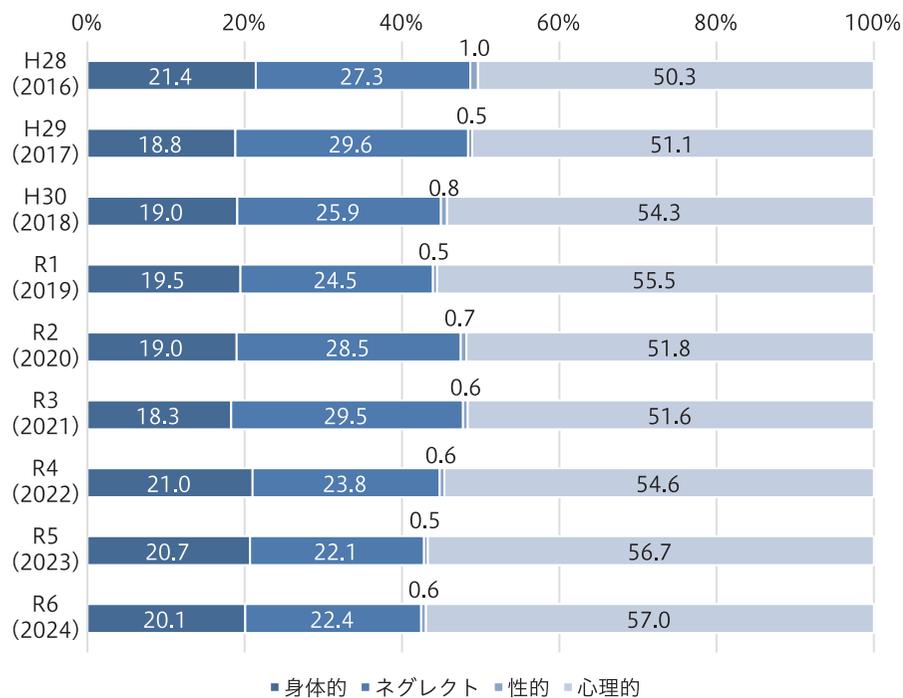


2 子ども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(8/15)

(5) 児童虐待に関する状況

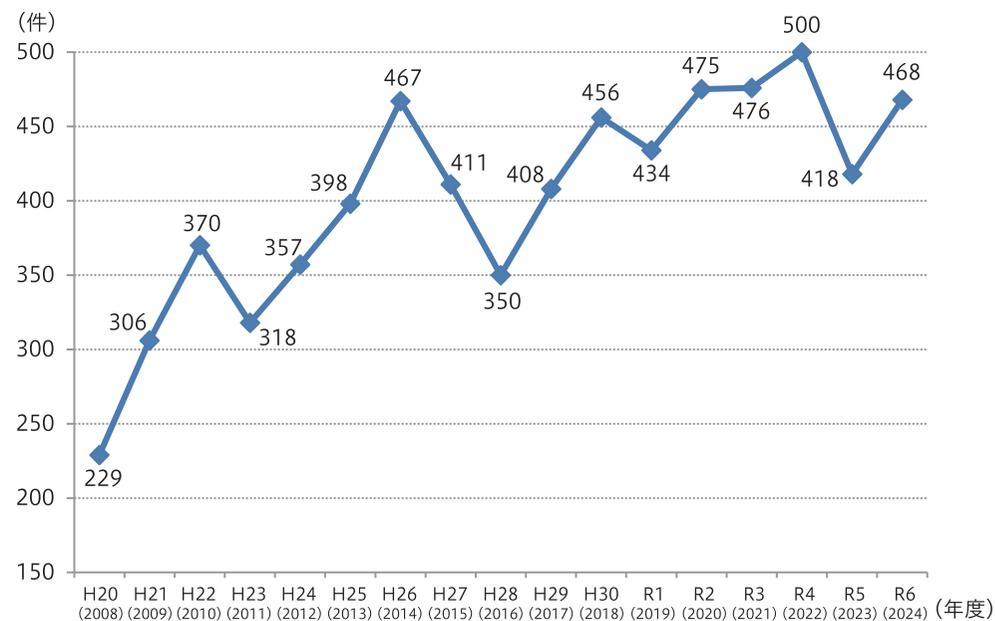
一時保護施設における一時保護件数は高止まりの状況が続いており、令和6(2024)年度は468件となっています。

図表25 児童虐待相談・通告件数の虐待種別内訳(市)



資料: 子ども未来局調べ

図表26 一時保護施設における一時保護件数の推移(市)



資料: 子ども未来局調べ

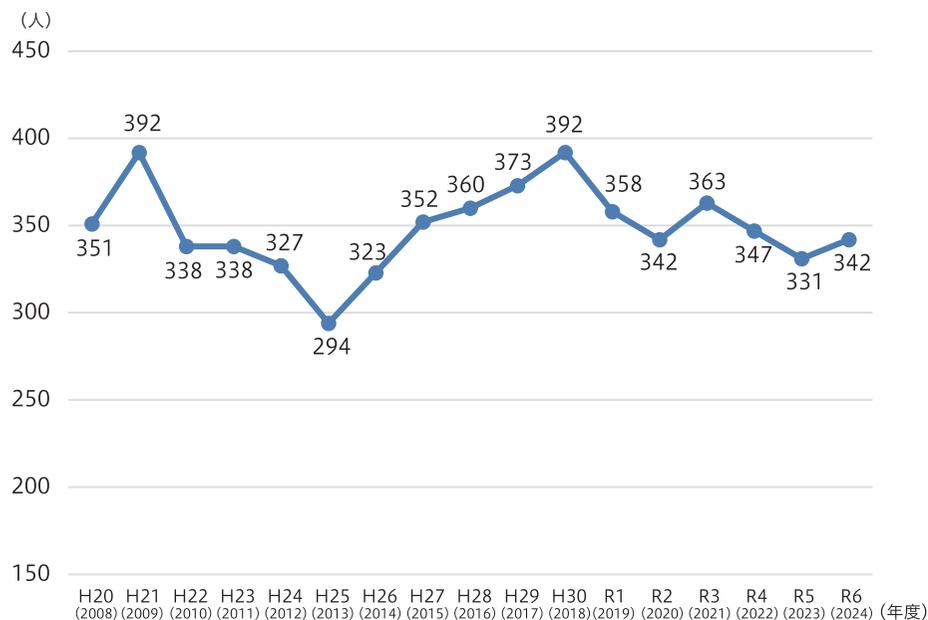
2 こども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(9/15)

(5) 児童虐待に関する状況

里親や児童養護施設で生活する児童数は、令和6(2024)年度で342人となっています。

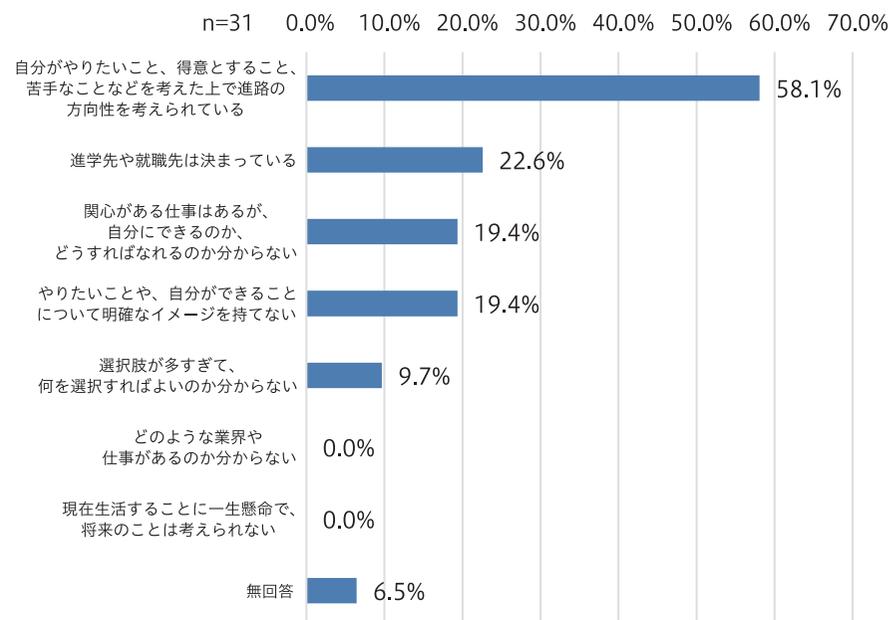
児童養護施設等に入所している高校生を対象に、将来の進路選択についてアンケートを行ったところ、進路を選ぶことについて、「自分がやりたいこと、得意とすること、苦手なことなどを考えた上で進路の方向性を考えられている」が58.1%、「進学先や就職先は決まっている」が22.6%である一方、「やりたいことや、自分ができることについて明確なイメージを持ってない」が19.4%となっています。

図表27 社会的養護の下にある児童数推移(市)



資料:こども未来局調べ

図表28 児童養護施設等で生活する児童等の進路選択(市)



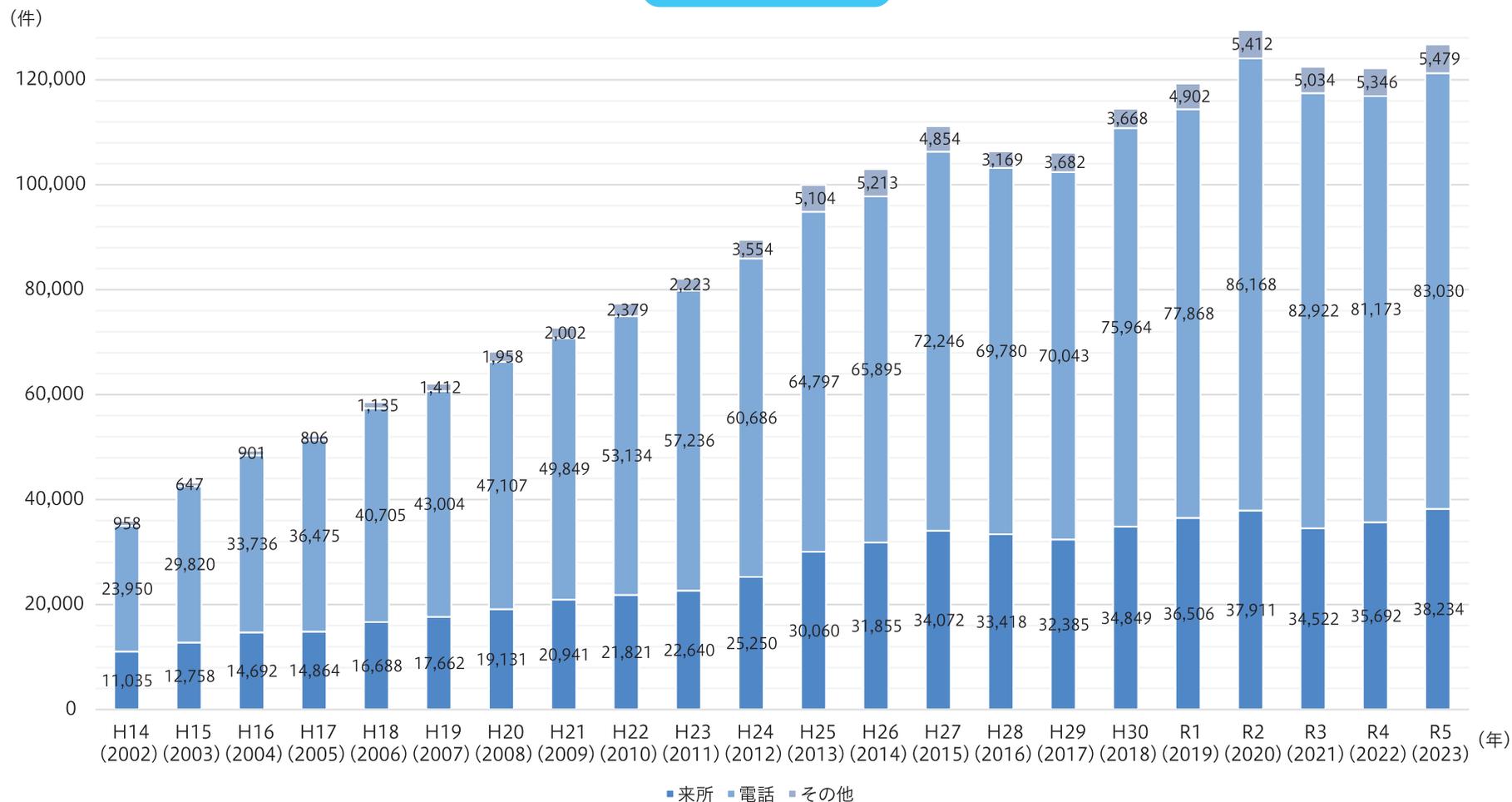
※複数回答
資料:こども未来局調べ

2 子ども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(10/15)

(6) DV・女性相談等に関する状況

我が国のDV相談件数は増加傾向にあり、令和5(2023)年で126,743件となっています。

図表29 DV相談件数(国)



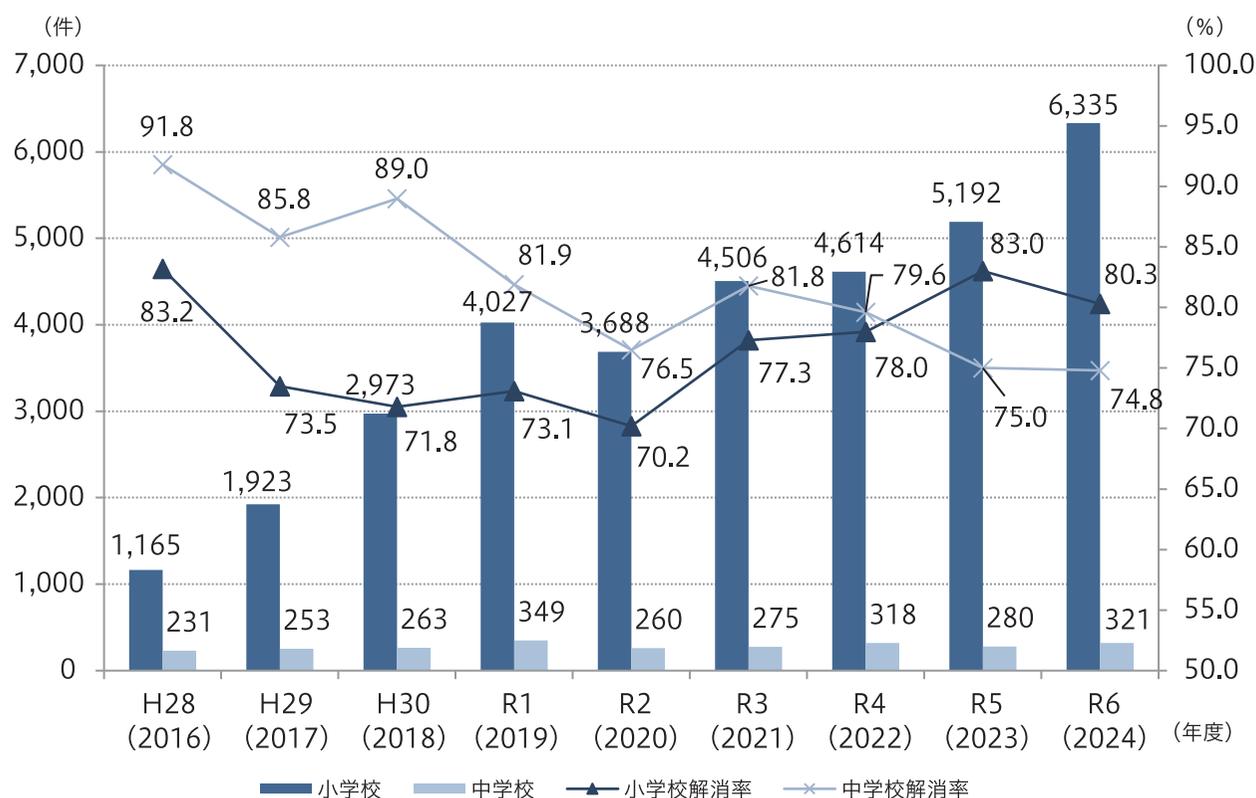
資料：配偶者暴力相談センターにおける相談件数(令和5年度分)(内閣府男女共同参画局)

2 こども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(11/15)

(7) いじめ・長期欠席・不登校に関する状況

市立小・中学校におけるいじめの認知件数は、令和6（2024）年に小学校6,335件、中学校321件となっており、小学校は増加傾向に、中学校は横ばいの状況にあります。また、長期欠席児童生徒数は、令和6（2024）年に小学校で2,388人、中学校で2,072人となっています。

図表30 いじめの認知件数及び解消率（市）

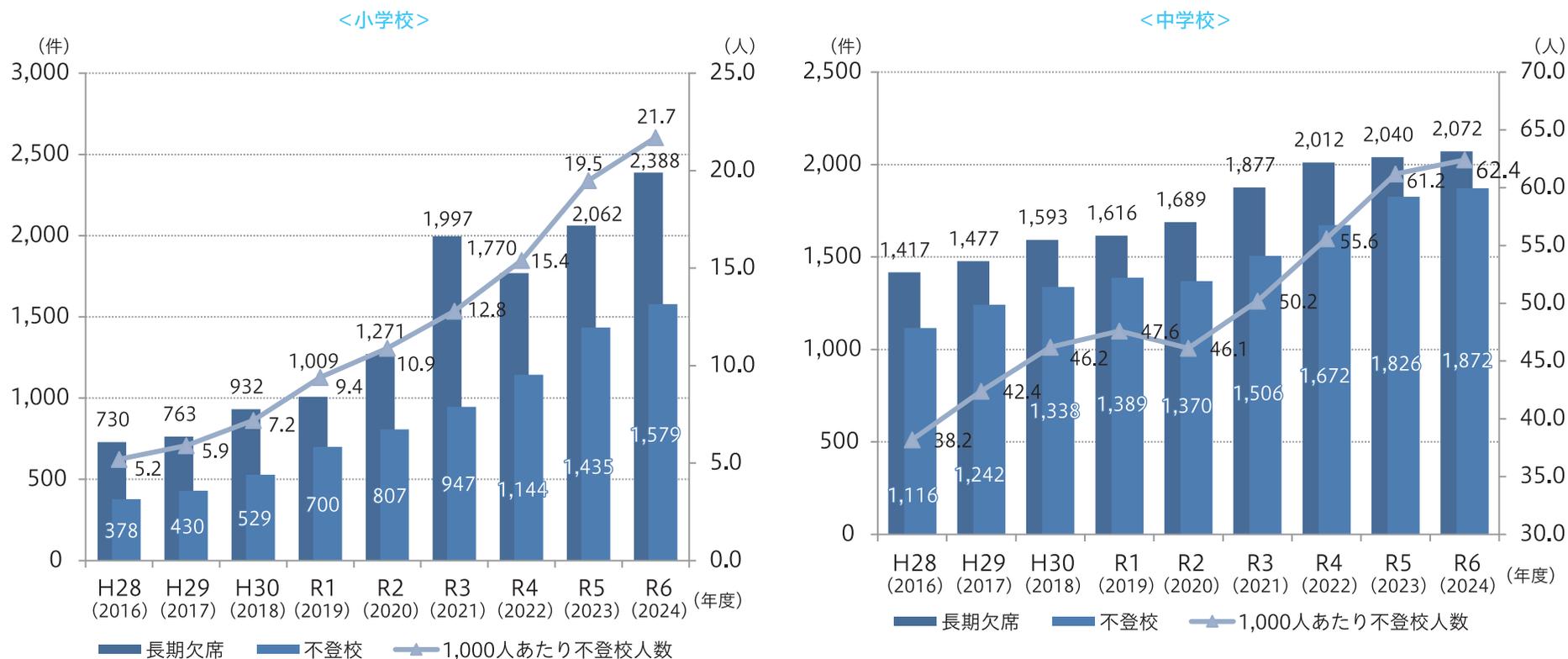


資料：令和6年度川崎市立小・中学校における児童生徒の問題行動・不登校等の調査結果を基に作成

2 子ども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(12/15)

(7) いじめ・長期欠席・不登校に関する状況

図表31 長期欠席児童生徒数の推移(市)



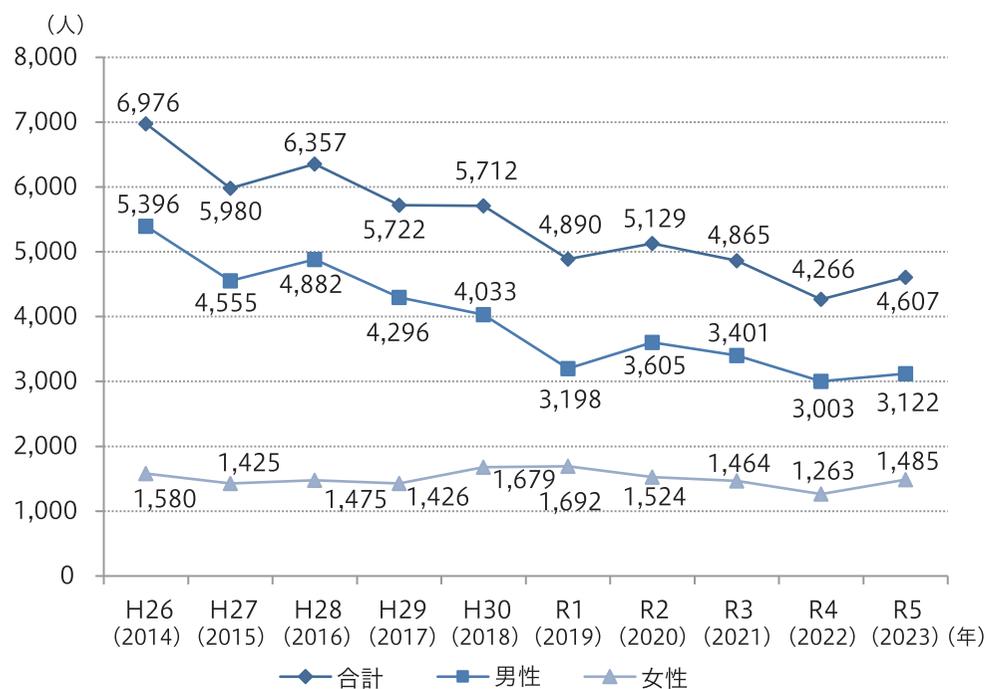
※長期欠席=病欠+不登校+その他
 ※1,000人あたりの不登校人数(不登校人数÷全児童・生徒数×1,000)
 資料:令和6年度川崎市立小・中学校における児童生徒の問題行動・不登校等の調査結果を基に作成

2 子ども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(13/15)

(8) 非行等に関する状況

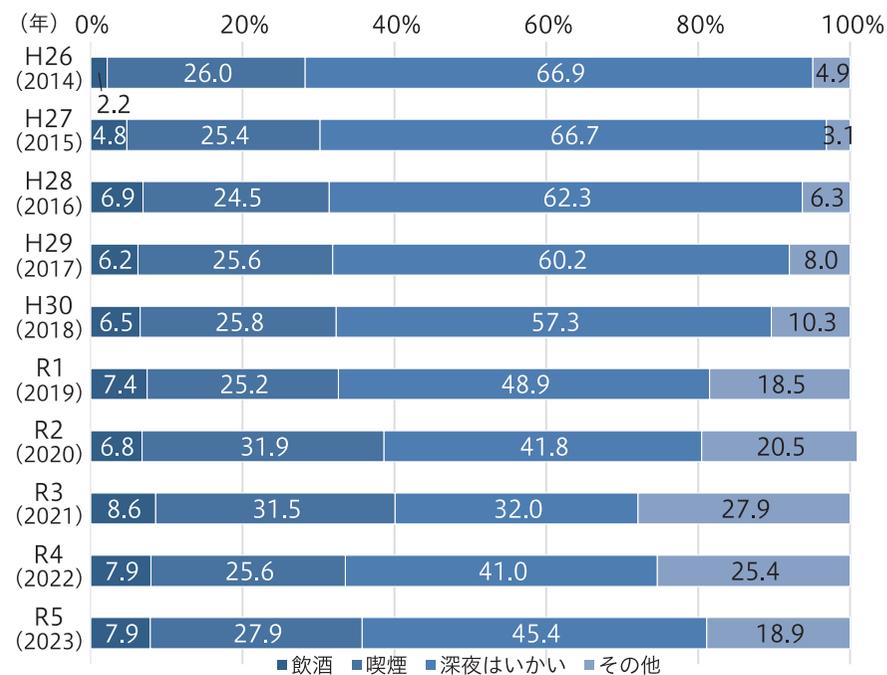
不良行為少年として補導した少年は、男性が減少傾向にあり、令和5（2023）年に男性3,122人、女性1,485人となっています。行為別状況では、深夜はいかいが最も多く令和5（2023）年は45.4%を占めています。

図表32 不良行為少年数の推移(市)



資料：神奈川県警察本部調べ

図表33 不良行為少年の行為別状況(市)



資料：神奈川県警察本部調べ

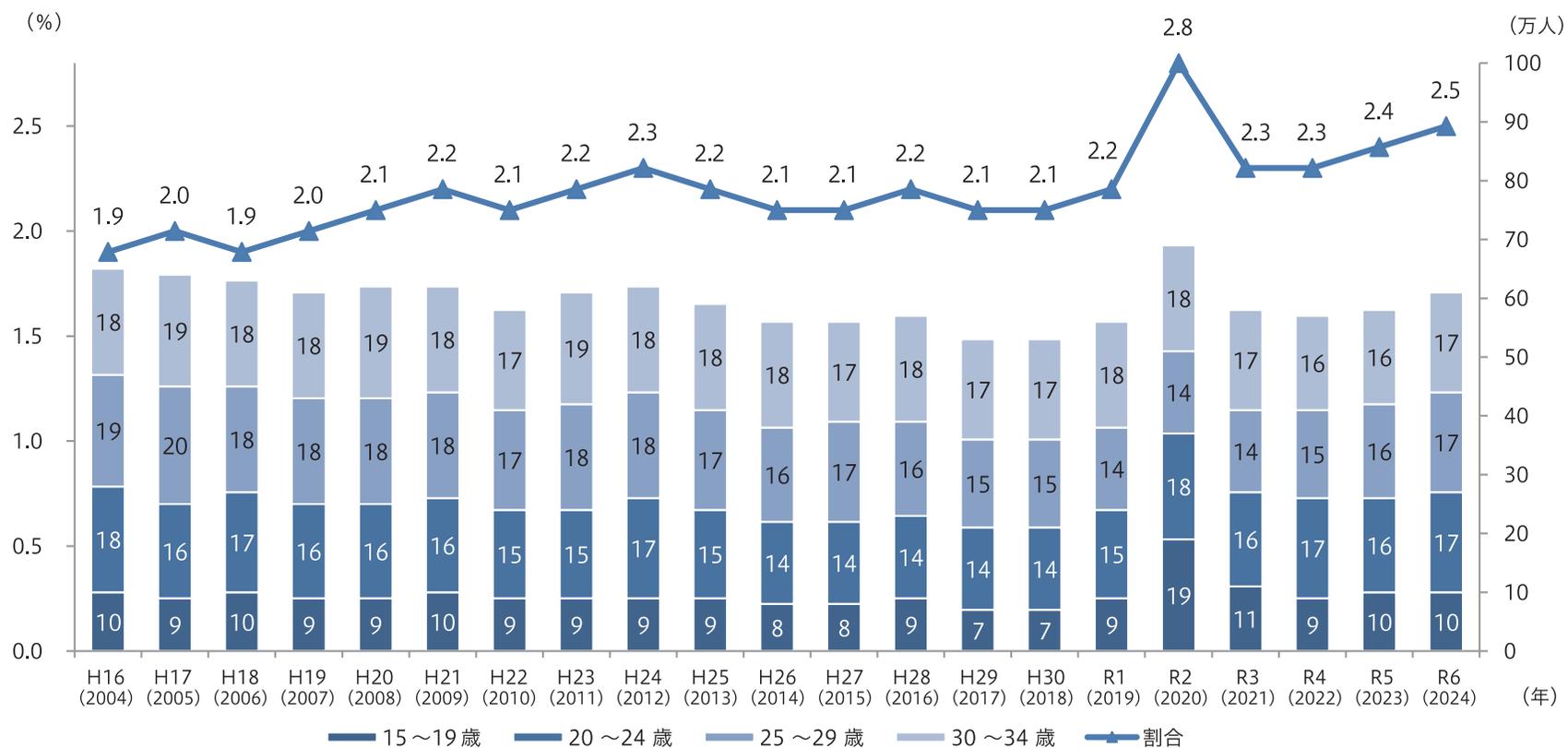
2 子ども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(14/15)

(9) 若年無業者、ひきこもりに関する状況

我が国の若年無業者※の推移を見ると令和6(2024)年平均で約61万人と、前年に比べて約3万人の増となりました。年齢階級別に見ると、20～24歳、25～29歳、30～34歳が、それぞれ約17万人と最も多くなっています。

※若年無業者:15歳から34歳の非労働力人口のうち家事も通学もしていない者

図表34 若年無業者及び人口に占める割合(国)



資料:総務省 労働力調査

2 子ども・若者及び子育て家庭を取り巻く状況(15/15)

(9) 若年無業者、ひきこもりに関する状況

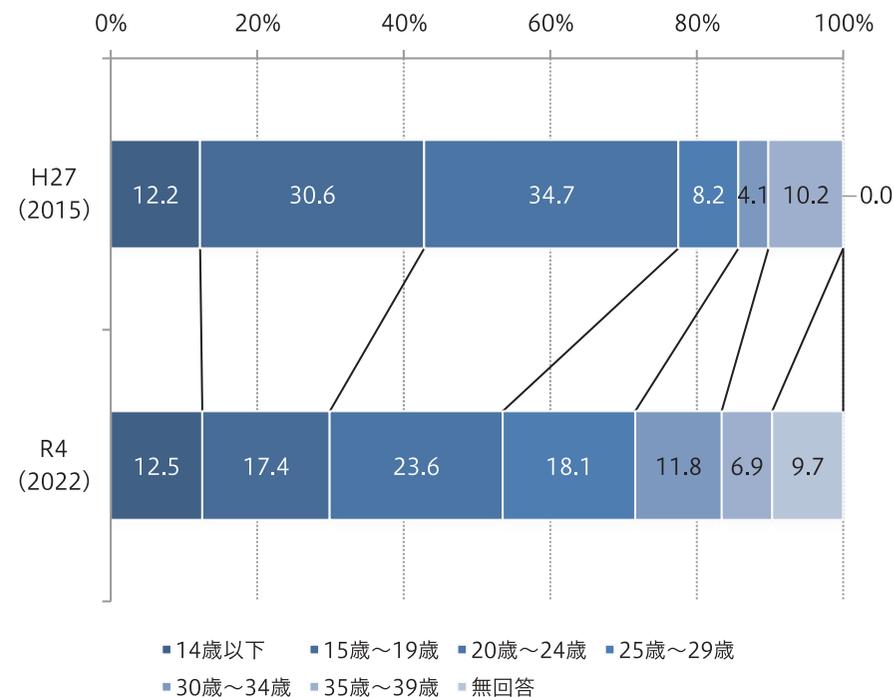
我が国の令和4(2022)年の広義のひきこもりの推計数は約65.3万人とされており、平成27(2015)年から増加しています。また、ひきこもりの状態になった年齢は、20歳～24歳の割合が23.6%と最も多くなっています。

図表35 ひきこもり推計数(国)

		有効回収数に占める割合(%)	全国の推計数(万人)			
			H27(2015)	R4(2022)	H27(2015)	R4(2022)
広義のひきこもり	準ひきこもり	ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	1.06	0.95	36.5	30.3
	狭義のひきこもり	ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	0.35	0.74	12.1	23.6
		自室からは出るが、家からは出ない	0.16	0.36	5.5	11.5
計			1.57	2.05	54.1	65.3

※全国の推計数は、四捨五入のため合計と内訳が一致しない場合がある。
資料：平成27(2015)年は内閣府「若者の生活に関する調査報告書」
令和4(2022)年は内閣府「子ども・若者の意識と生活に関する調査」

図表36 ひきこもりの状態になった年齢(国)



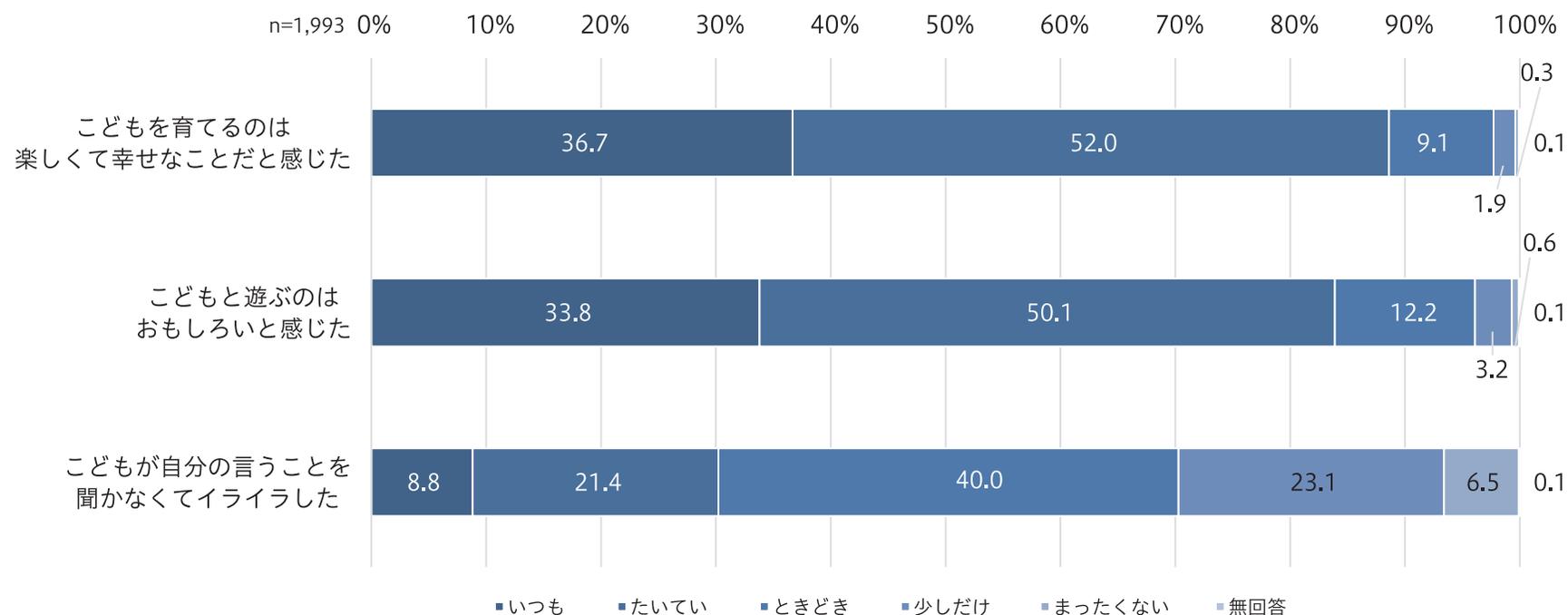
資料：平成27(2015)年は内閣府「若者の生活に関する調査報告書」
令和4(2022)年は内閣府「子ども・若者の意識と生活に関する調査」

3 こども・若者の成長・発達段階における状況(1/12)

(1) 子育てに関する状況

川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)によると、0～5歳のこどもの保護者では、「こどもを育てるのは楽しくて幸せなことだと感じた」は、「たいてい」が52.0%で最も高く、次いで、「いつも」が36.7%、「こどもと遊ぶのはおもしろいと感じた」は、「たいてい」が50.1%で最も高く、次いで、「いつも」が33.8%、「こどもが自分の言うことを聞かなくてイライラした」は、「ときどき」が40.0%で最も高く、次いで、「少しだけ」が23.1%となっています。

図表37 子育てをする中で、日ごろ感じていること(市)



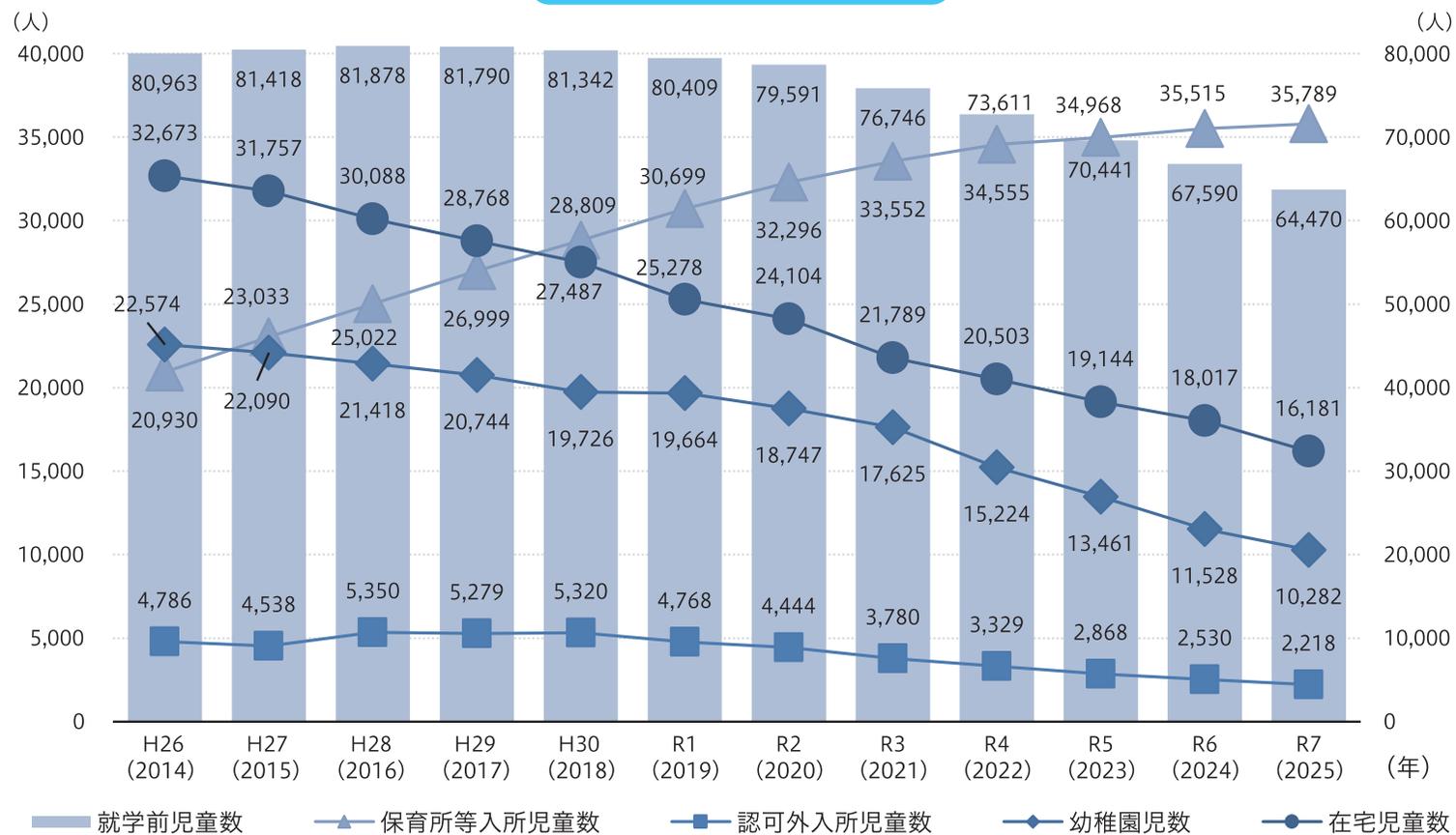
資料:川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)

3 子ども・若者の成長・発達段階における状況(2/12)

(1) 子育てに関する状況

本市の就学前のこどもの養育状況として、就学前児童数が減少する中、保育所等入所児童数は年々増加しており、認可外入所児童数、幼稚園児数、在宅児童数は減少傾向となっています。

図表38 就学前のこどもの養育状況(市)



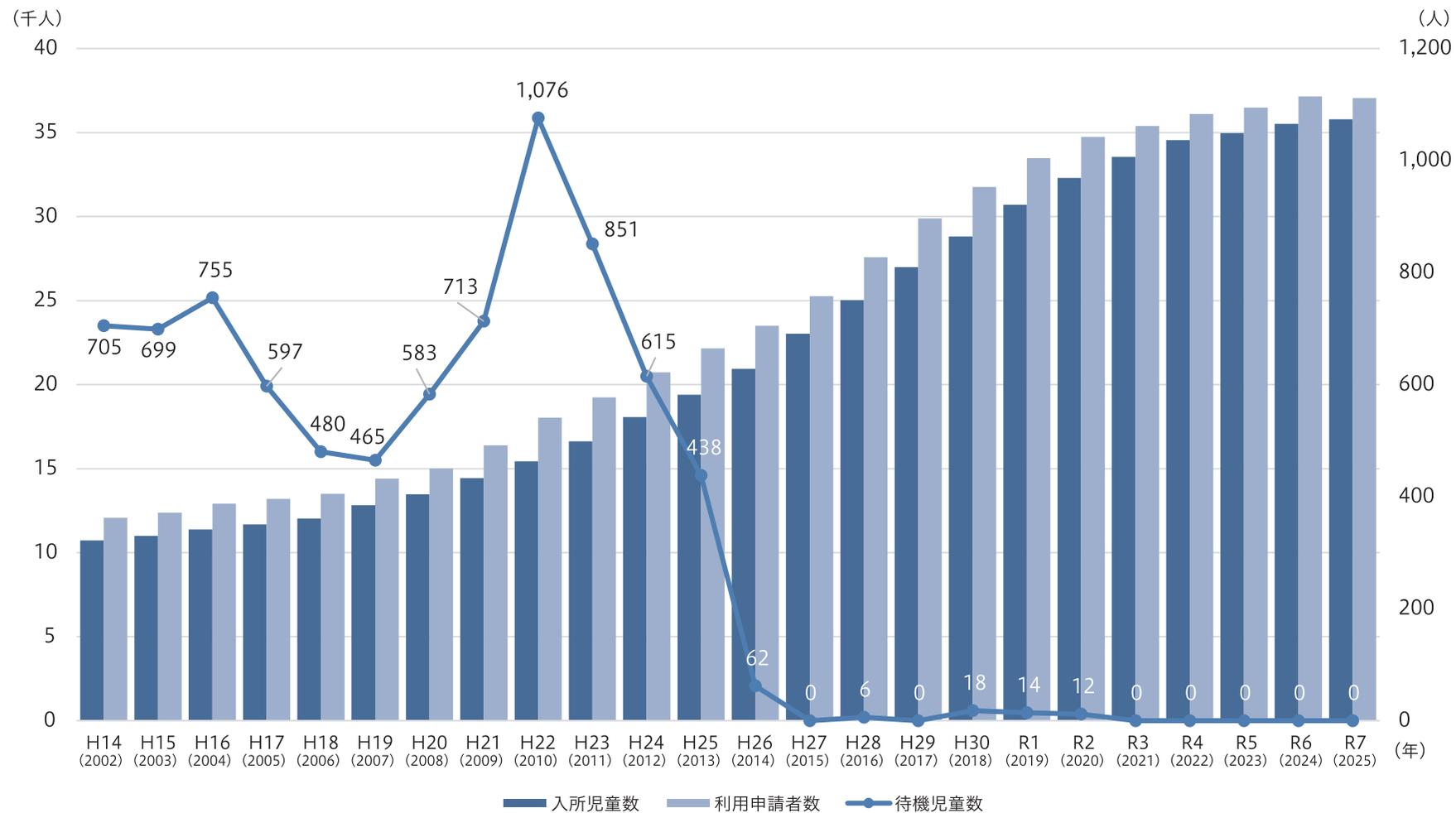
※保育所等入所児童数は、各年4月1日現在の市内在住の公立保育所、認可保育所、認定こども園(保育所部分)、地域型保育事業の入所者数
 ※認可外入所児童数は、各年4月1日現在の川崎認定保育園、地域保育園等の認可外保育施設の利用者数
 ※幼稚園児数は、各年5月1日現在の市内在住の幼稚園(施設型給付・私学助成)、認定こども園(幼稚園部分)の園児数
 ※在宅児童数は、就学前児童数から保育所等入所児童数、認可外入所児童数、幼稚園児数を差し引いた数
 資料: こども未来局調べ

3 こども・若者の成長・発達段階における状況(3/12)

(1) 子育てに関する状況

保育所等の利用申請者数は、増加傾向が続いています。また、令和7(2025)年は待機児童数0人となっています。

図表39 保育所等の利用申請者数・待機児童数等の推移(市)



資料:こども未来局調べ(各年4月1日現在)

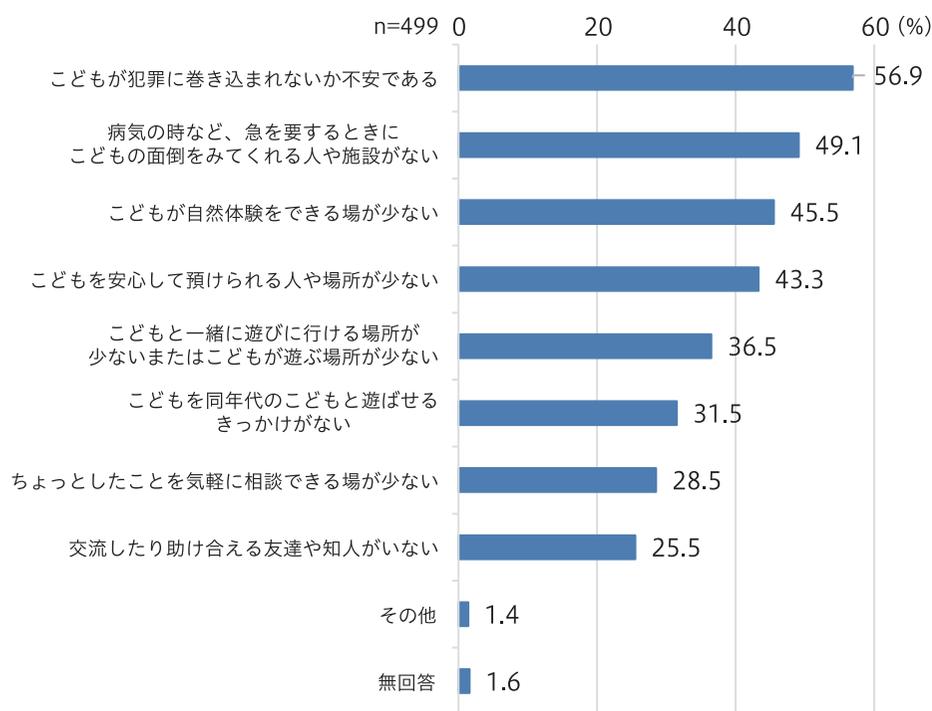
3 こども・若者の成長・発達段階における状況(4/12)

(1) 子育てに関する状況

川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)によると、0～5歳のこどもの保護者では、子育て環境の悩みは、「こどもが犯罪に巻き込まれないか不安である」が56.9%で最も高く、次いで、「病気の時など、急を要するときにこどもの面倒をみてくれる人や施設がない」が49.1%となっています。

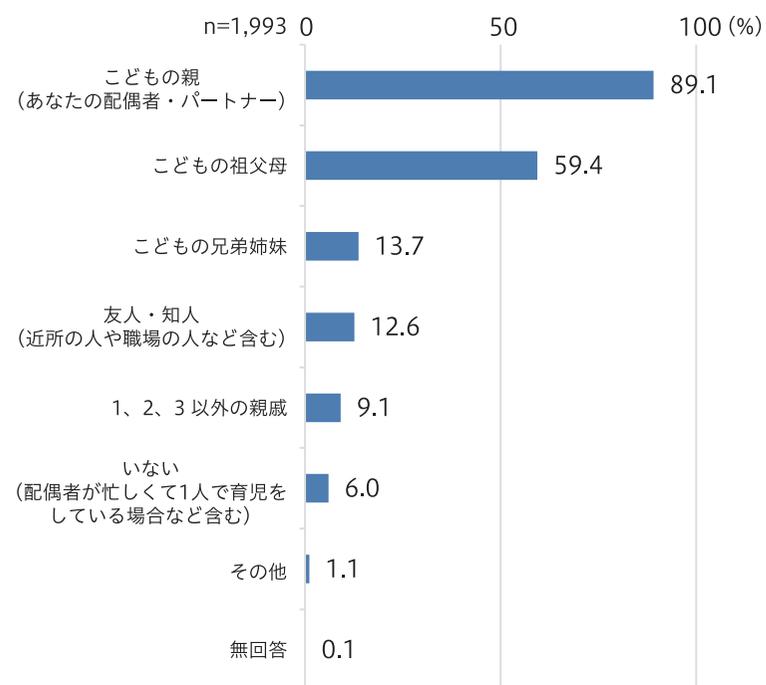
川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)によると、0～5歳のこどもの保護者では、「子育てにおいて普段協力してくれる方はいますか」では、「こどもの親(配偶者・パートナー)」が89.1%で最も高く、次いで、「こどもの祖父母」が59.4%となっています。

図表40 子育て環境の悩み(市)



※複数回答
資料:川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)

図表41 子育ての協力者の有無(市)



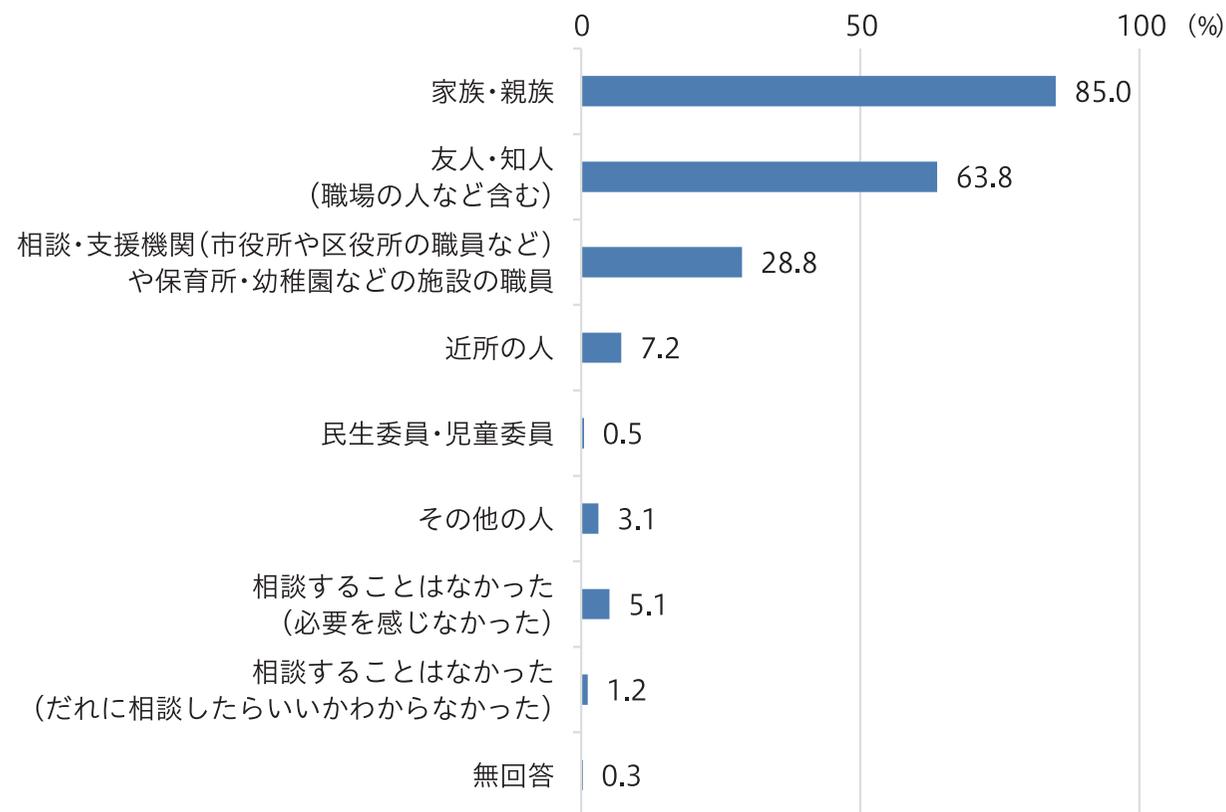
※複数回答
資料:川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)

3 こども・若者の成長・発達段階における状況(5/12)

(1) 子育てに関する状況

川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)によると、「子育てに関する相談をだれに相談しましたか」では、「家族・親族」が85.0%で最も高く、次いで、「友人・知人(職場の人など含む)」が63.8%となっています。

図表42 子育ての相談相手の有無(市)



※複数回答
資料:川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)

3 こども・若者の成長・発達段階における状況(6/12)

(1) 子育てに関する状況

川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)によると、未就学児の親のうち、居住年数が少ない人や保育所等にこどもを預けていない人ほど、近所の人との交流がなく、近所の人との交流がない人ほど、子育てに関する心配ごとや悩みがあると回答した割合が高い状況にあります。

図表43 居住年数と近所付き合いの有無等(市)

●居住年数と近所付き合いの有無

n=1,979

		近所の人との交流		
		交流がある	まったく 付き合いがない	合計
居住年数	1年未満	84.75%	15.25%	100.00%
	1年～3年未満	81.25%	18.75%	100.00%
	3年～5年未満	81.79%	18.21%	100.00%
	5年～10年未満	87.72%	12.28%	100.00%
	10年～20年未満	89.40%	10.60%	100.00%
	20年以上	87.63%	12.37%	100.00%
合計		86.10%	13.90%	100.00%

●施設の利用状況と近所付き合いの有無

n=1,938

		近所の人との交流		
		交流がある	まったく 付き合いがない	合計
施設の利用	保育所や幼稚園に預けている	88.70%	11.30%	100.00%
	保育所や幼稚園に預けていない	77.43%	22.57%	100.00%
合計		86.13%	13.87%	100.00%

●近所付き合いの有無と同年代のこどもと遊ばせるきっかけに関する心配ごとや悩みごと

n=499

		こどもを同年代のこどもと遊ばせるきっかけに関する 心配ごとや悩みごと		
		ない	ある	合計
近所の人との交流	交流がある	72.79%	27.21%	100.00%
	まったく付き合いがない	49.45%	50.55%	100.00%
合計		68.54%	31.46%	100.00%

●近所付き合いの有無と安心して預けられる人や場所の有無に関する心配ごとや悩みごと

n=499

		こどもを安心して預けられる人や場所の 有無に関する心配ごとや悩みごと		
		ない	ある	合計
近所の人との交流	交流がある	57.84%	42.16%	100.00%
	まったく付き合いがない	51.65%	48.35%	100.00%
合計		56.71%	43.29%	100.00%

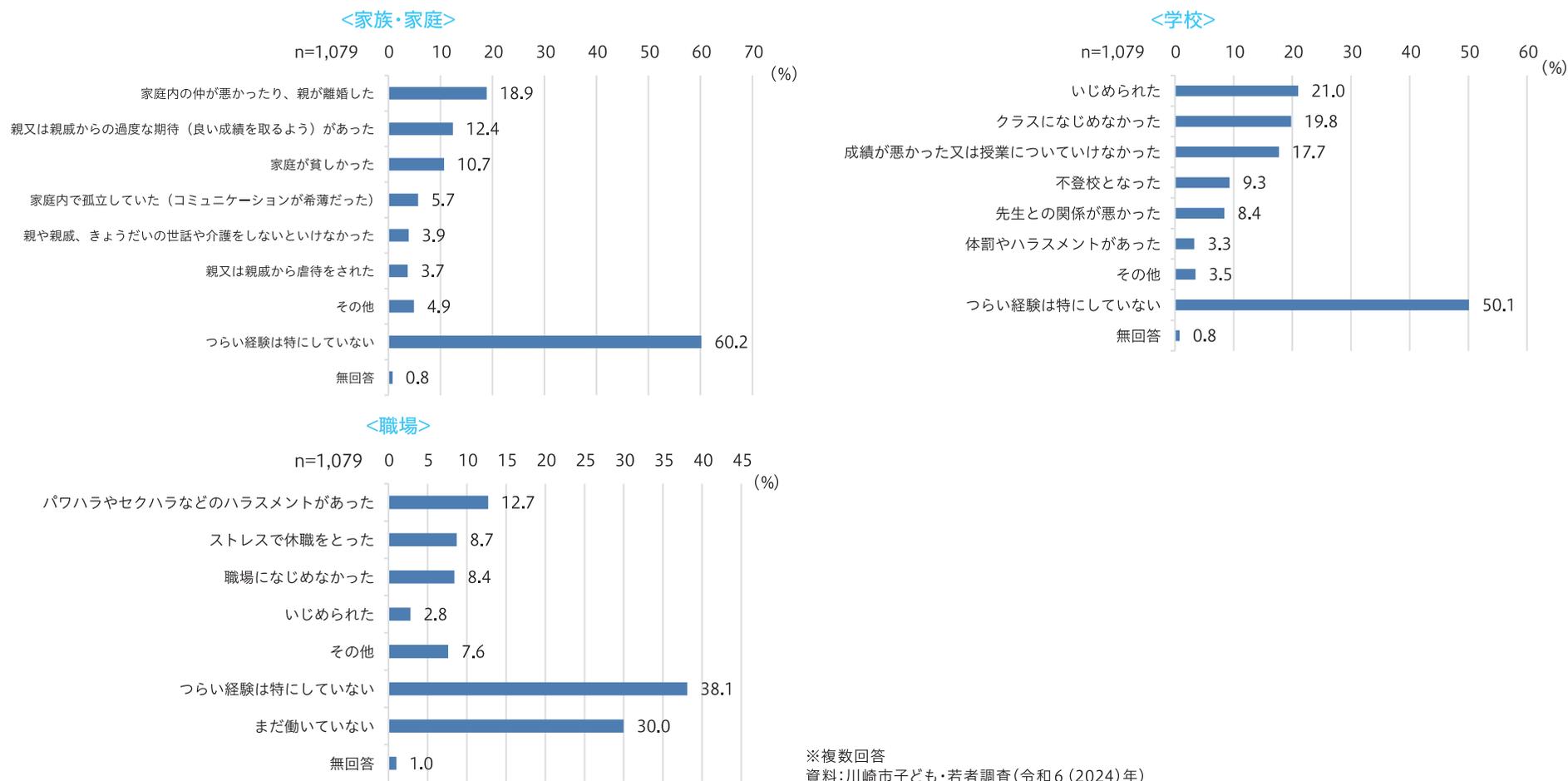
資料:川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)

3 子ども・若者の成長・発達段階における状況(7/12)

(2) 子ども・若者本人に関する状況

川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)によると、過去又は現在つらい経験をしたことはありますかでは、家族・家庭、学校、職場いずれも「つらい経験は特にしていない」が最も多くなっており、つらい経験がなかった子ども・若者が多くいる反面、家族・家庭では39.0%、学校では49.1%、職場では30.9%が過去にいずれかのつらい経験があったと回答しています。

図表44 つらい経験の状況(市)

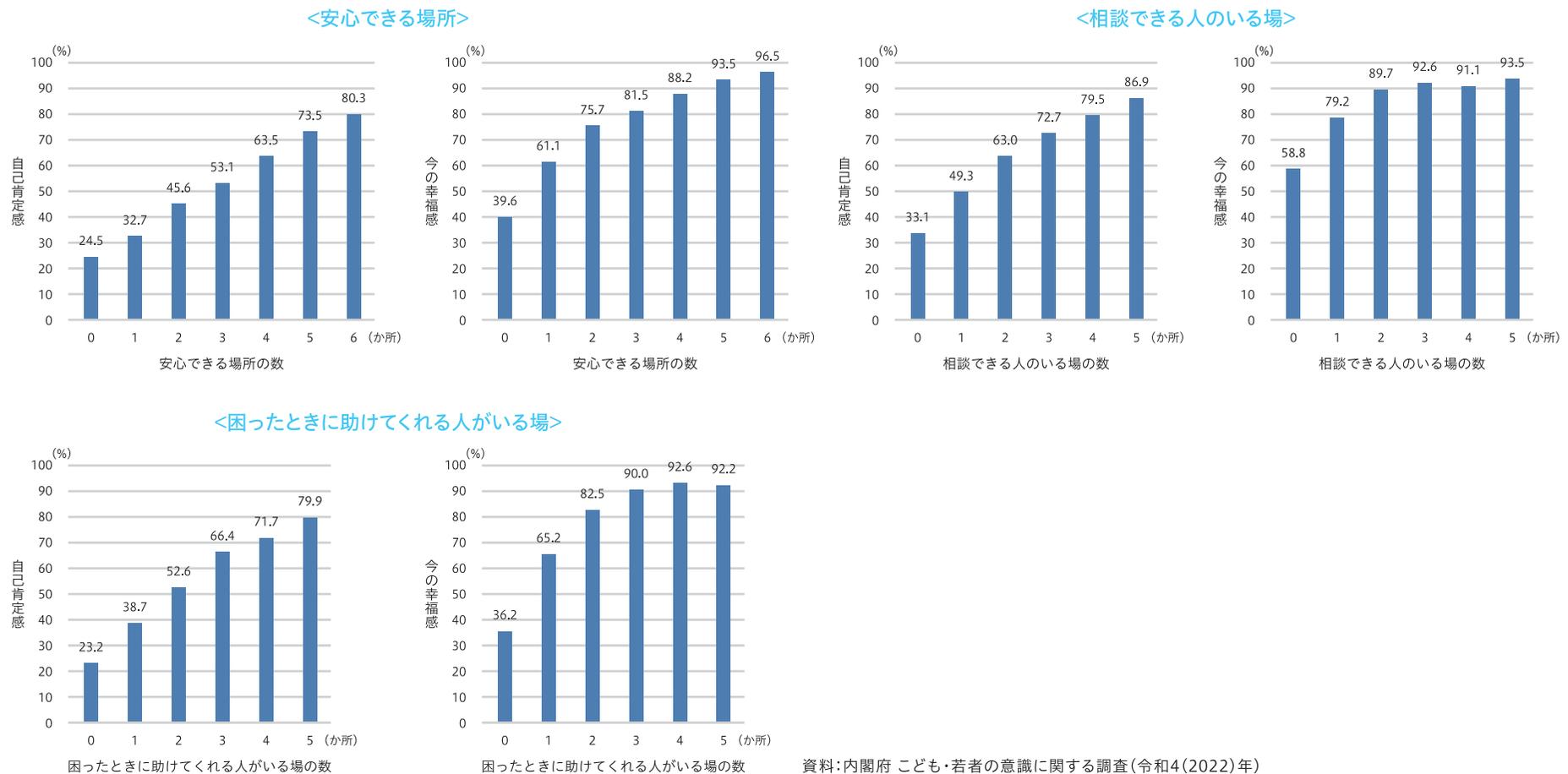


3 子ども・若者の成長・発達段階における状況(8/12)

(2) 子ども・若者本人に関する状況

子ども・若者の意識と生活に関する調査(令和4(2022)年度)によると、安心できる場所、相談できる人がいる場所及び困ったときに助けてくれる人がいる場所に関する集計結果では、居場所の数の多さと自己肯定感、今の幸福感の高さに関連が見られました。

図表45 子ども・若者の居場所と自己肯定感・幸福感の関係(国)



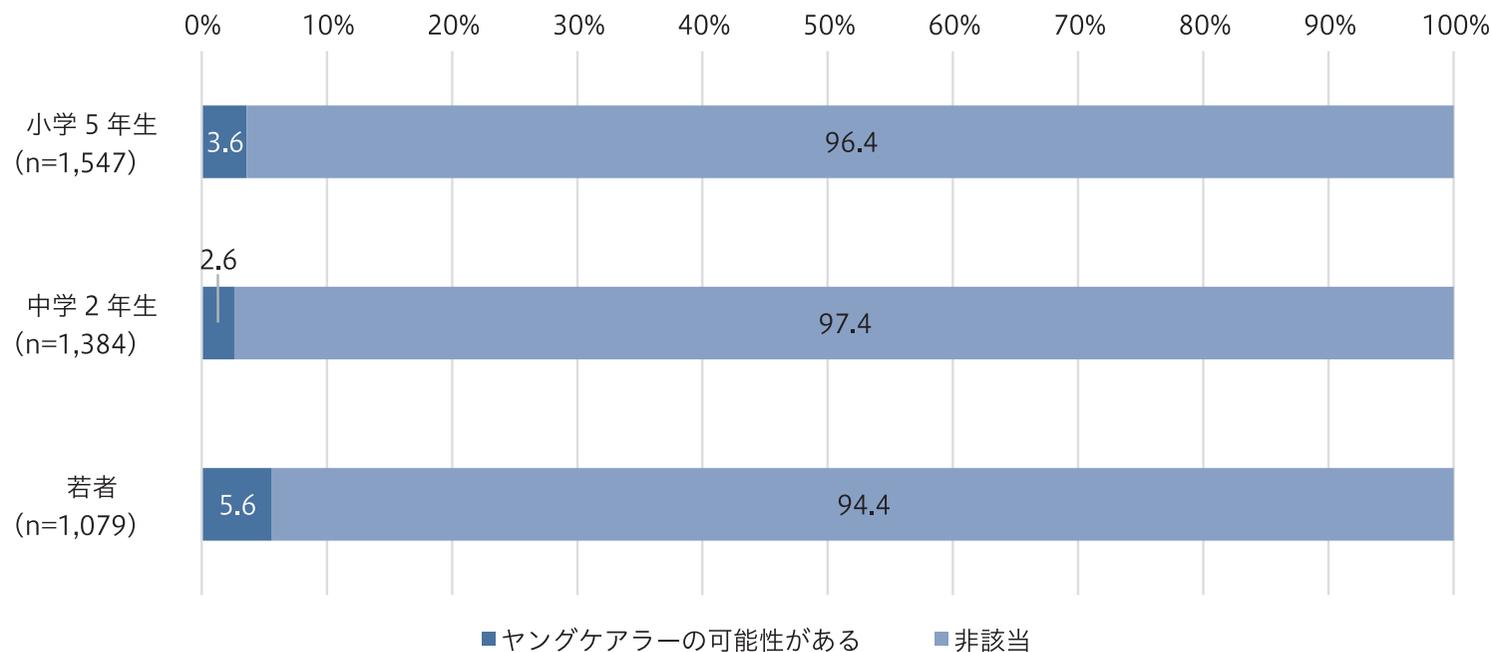
3 こども・若者の成長・発達段階における状況(9/12)

(2) こども・若者本人に関する状況

川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)によると、ヤングケアラーの可能性のあるのは、小学校5年生が3.6%、中学校2年生が2.6%、若者(16~30歳の者)が5.6%となりました。

※「ヤングケアラーの可能性のある」の定義…本調査において、「家で、家族の誰かのために世話や家事等をしている」かつ、「世話や家事等をしていることにより日常生活に何らかの影響がある」と回答した方。

図表46 ヤングケアラーの可能性のある方(市)



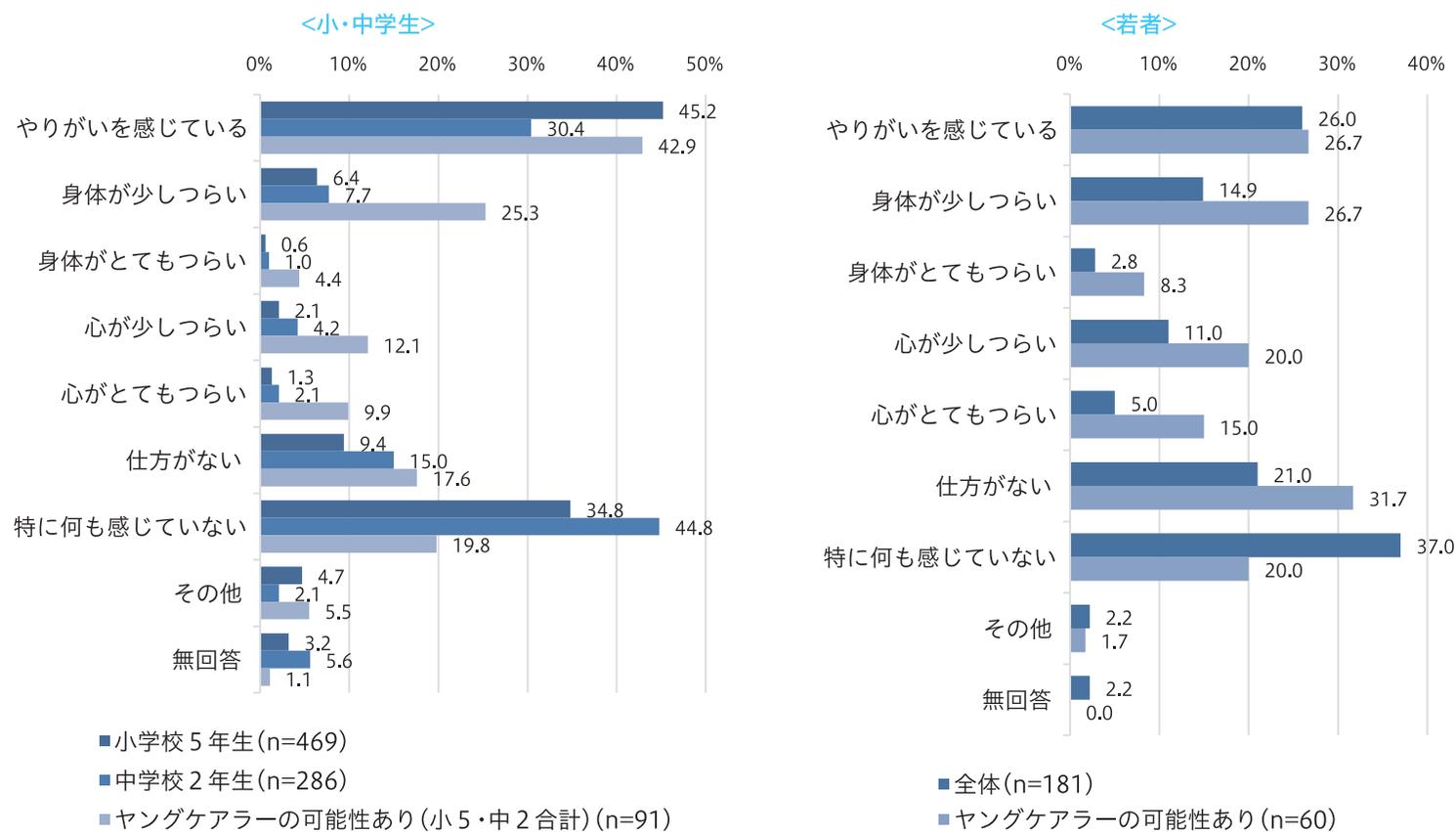
資料:川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)

3 子ども・若者の成長・発達段階における状況(10/12)

(2) 子ども・若者本人に関する状況

世話や家事等をしていて感じることに、ヤングケアラーの可能性のある人のうち、小学校5年生、中学校2年生の合計では「やりがいを感じている」が最も高く、次いで「身体が少しつらい」、「特に何も感じていない」が高くなっています。また、若者では、「仕方がない」が最も高く、次いで「やりがいを感じている」、「身体が少しつらい」が高くなっています。

図表47 世話や家事等をしていて感じること(市)



※複数回答

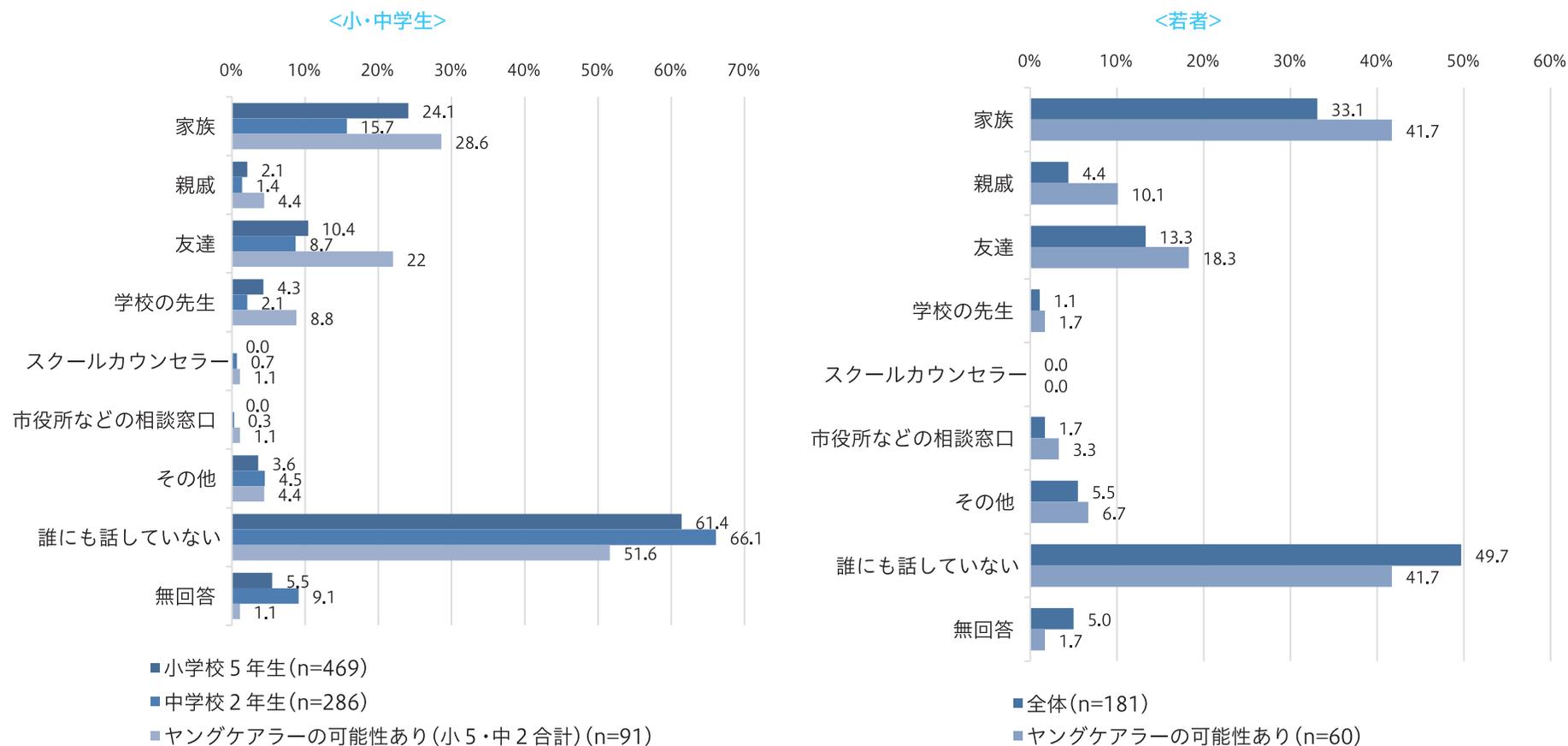
資料:川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)

3 子ども・若者の成長・発達段階における状況(11/12)

(2) 子ども・若者本人に関する状況

世話や家事等についての相談相手について、ヤングケアラーの可能性のある人のうち、小学校5年生、中学校2年生の合計では「誰にも話していない」が最も高く、次いで「家族」、「友達」が高くなっています。また、若者では、「家族」、「誰にも話していない」が最も高く、次いで「友達」、「親戚」が高くなっています。

図表48 世話や家事等についての相談相手(市)



※複数回答

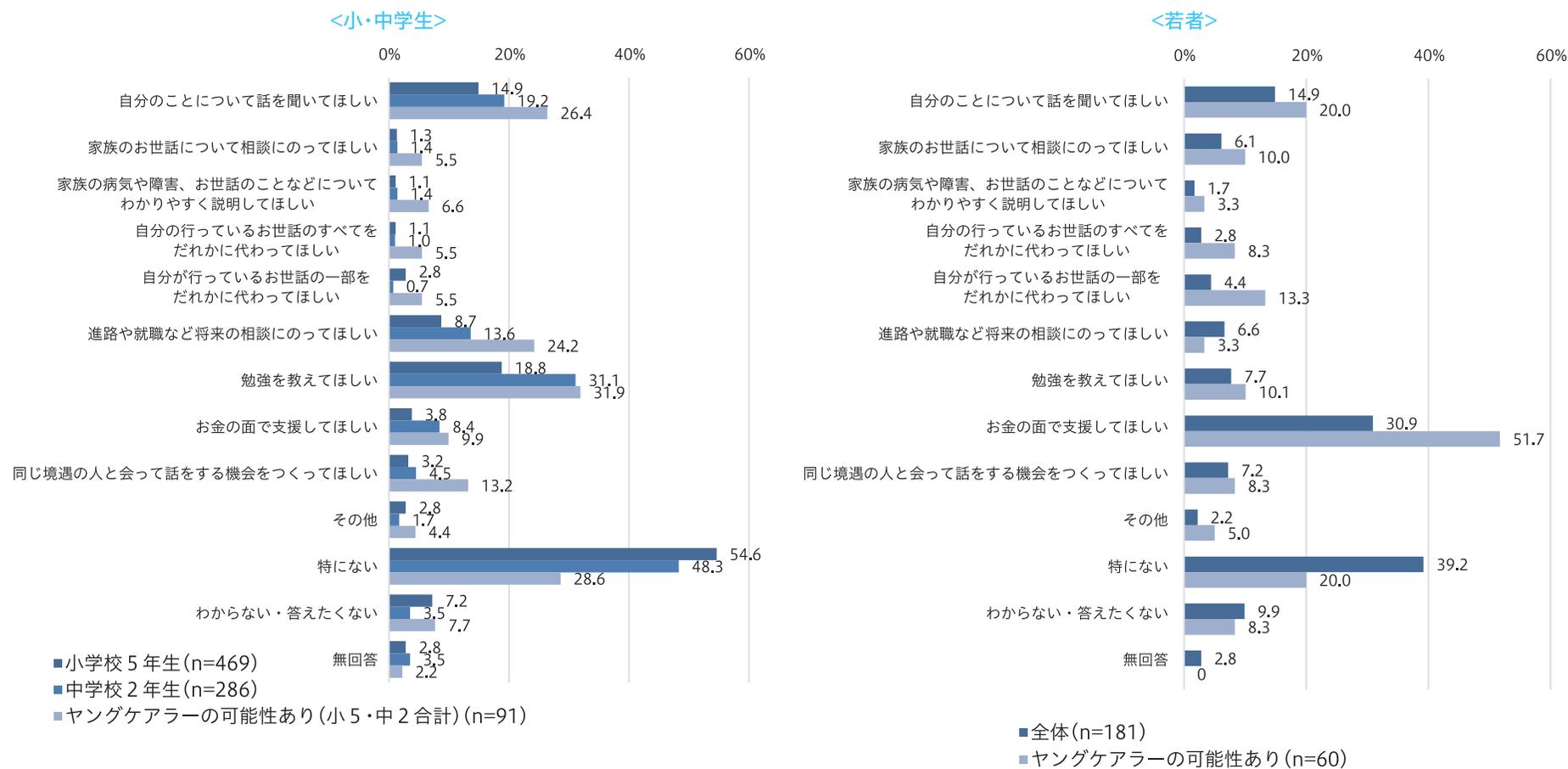
資料:川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)

3 こども・若者の成長・発達段階における状況(12/12)

(2) こども・若者本人に関する状況

周りからしてもらいたいことについて、ヤングケアラーの可能性のある人のうち、小学校5年生、中学校2年生の合計では「勉強を教えてほしい」が最も高く、次いで「自分のことについて話を聞いてほしい」、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」が高い一方で、「特にない」も高くなっています。また、若者では、「お金の面で支援してほしい」が最も高く、次いで「自分のことについて話を聞いてほしい」、「自分が行っているお世話の一部をだれかに代わってほしい」が高い一方で、「特にない」も高くなっています。

図表49 周りからしてもらいたいこと(市)



※複数回答
資料:川崎市子ども・若者調査(令和6(2024)年)

4 子ども・若者の“声”を聴く取組(1/7)

子ども基本法では、子どもの意見が尊重されその最善の利益が優先して考慮されることが基本理念の1つとされており、子ども施策の策定等に当たっては、子ども等の意見を聴き、施策に反映するものとされています。こうしたことから、本計画の策定に当たっては、子ども・若者の“声”を聴く取組を行っています。



「子ども・若者の“声”募集箱」の活用

令和4(2022)年度から継続している「子ども・若者の“声”募集箱」の意見を分析するとともに、本計画の策定に向けて、「子ども若者の“声”募集箱」の投稿フォームを活用したアンケートを実施。



「子ども・若者調査」の実施

市内の小学校5年生、中学校2年生と16歳から30歳までの若者、子育て家庭を対象に、生活状況や悩みごとなど、幅広い項目について意識調査を実施。



若者世代とのグルーptーク

市内の大学やソーシャルデザインセンターに協力をいただき、大学生やソーシャルデザインセンターに所属する若い世代の、結婚、子育て、ライフプランやまちづくりに対する意識を知るため、グルーptークを実施。

「第3期川崎市子ども・若者の未来応援プラン子ども版」の作成

子どもからも本計画についての意見を聴かせてもらえるよう、わかりやすい言葉を使った、「第3期川崎市子ども・若者の未来応援プラン子ども版」を作成。



パブリックコメントの実施

「第3期川崎市子ども・若者の未来応援プラン子ども版」などを見ていただき、子ども向けのパブリックコメントページや募集フォームを作成して、子ども・若者から本計画についての意見を聴取。



4 子ども・若者の“声”を聴く取組(2/7)

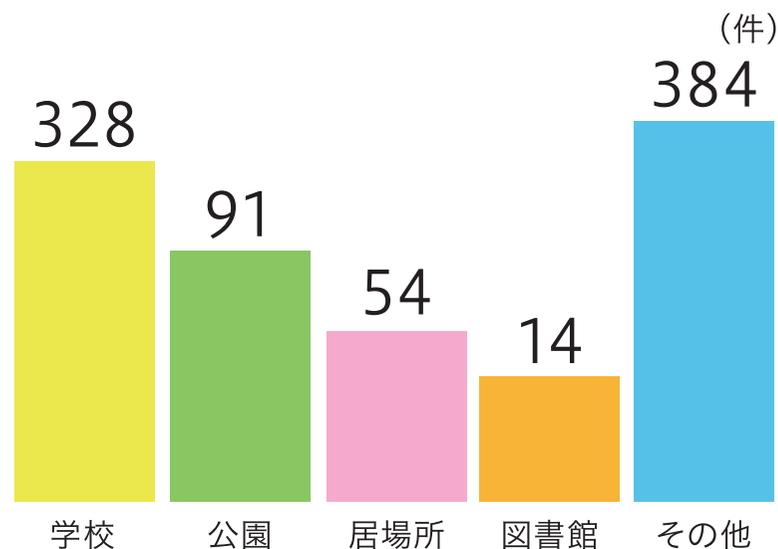
(1)「子ども・若者の“声”募集箱」の活用

市内在住・在学等の小学4年生から18歳までの子ども・若者が、本市に対して感じていることなどを把握するしくみとして、「子ども・若者の“声”募集箱」の事業を実施しています。届いた声は、市政運営の参考意見とし、自分たちの声が尊重されていることを実感できる機会となるよう取組を進めてきました。

試行実施を開始した令和4(2022)年12月から1,000件を超える声が届いています。

本格実施した令和5(2023)年度から令和6(2024)年度までに届いた声の中で多く届いた声は、子どもたちにとって身近な「学校に関すること」でした。

令和5(2023)年度から令和6(2024)年度に届いた声の件数



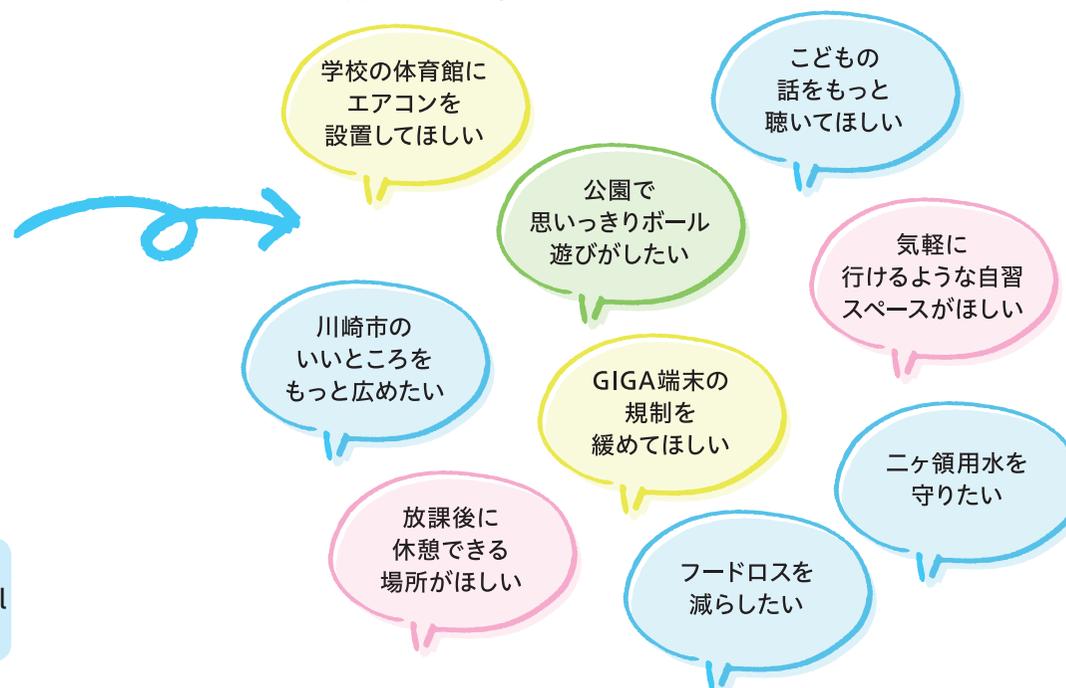
※その他:まちの設備や施設や整備に関すること、市の事業に関すること、環境美化に関すること、防犯や治安に関することなど

届いた声の詳細は、「子ども・若者の“声”募集箱」ホームページをご覧ください。
<https://www.city.kawasaki.jp/kawasaku18/page/0000172067.html>
 (子ども・若者の“声”募集箱 これまで寄せられた声&市の考え)

年度	通数	件数
令和4年度	123	198
令和5年度	347	402
令和6年度	443	469
令和7年度	423	465
合計	1,336	1,534

※通数:届いた声の数 件数:届いた内容の数
 ※令和7年度は令和7年12月分まで集計

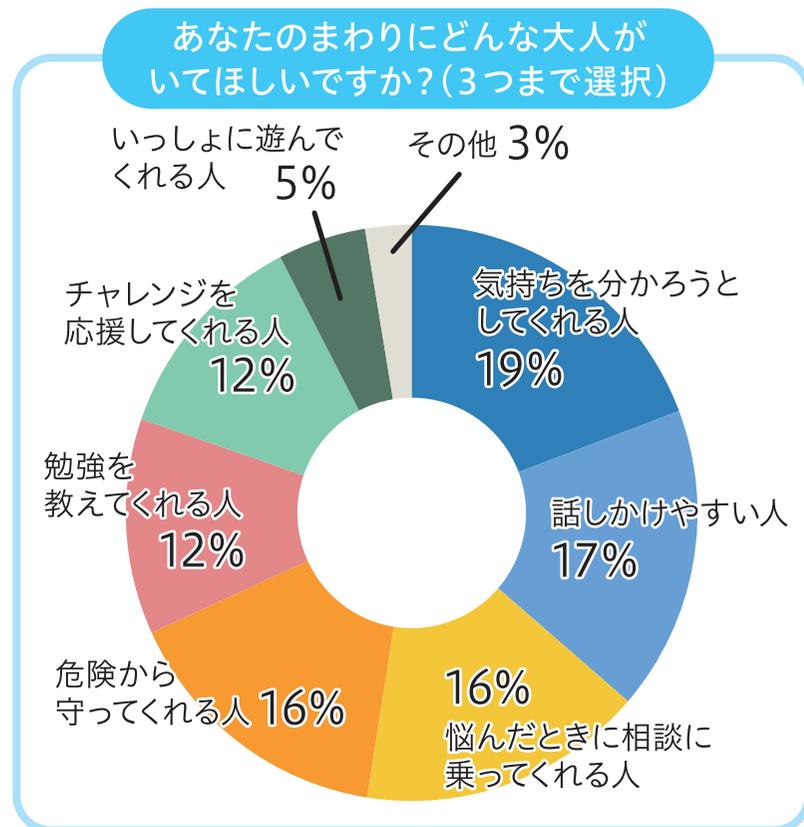
届いた声について、具体的な内容としては以下のような声が届いています。



4 こども・若者の“声”を聴く取組(3/7)

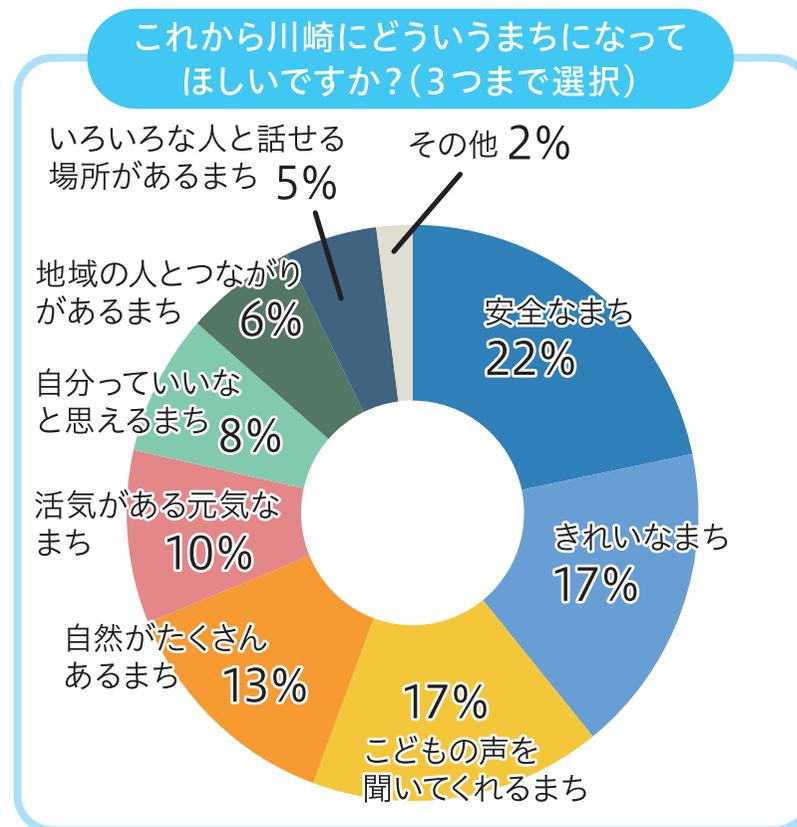
(2)「子ども・若者の“声”募集箱」の活用(WEBフォームを活用したアンケート)

本計画の策定に向けて、「子ども・若者の“声”募集箱」の募集フォームにおいて期間限定の設問を設置し、こどもたちの意見の提出を受けました。(計178件※)
実施期間：令和7(2025)年9月5日～令和7(2025)年12月26日



「気持ちは分かるうとしてくれる人」が一番多く、次いで「話しかけやすい人」、「悩んだときに相談に乗ってくれる人」と続いています。

その他としては、「お母さんと推し」、「毎朝ラジオ体操をしている人」、「自分を受け入れてくれる人」、「全部」などの意見がありました。



「安全なまち」が一番多く、次いで「きれいなまち」、「こどもの声を聞いてくれるまち」が続いています。

その他としては、「綺麗な公共の場所」、「県から独立した日本初の特別市」、「歴史をもっと感じることでできるまち」、「穏やかなまち」、「子供だけでなく、大人の意見まで聞いてくれるまち」などの意見がありました。

※割合は四捨五入した値を用いて記載しています。同一割合の項目については、人数の多い順に並べています。

4 子ども・若者の“声”を聴く取組(4/7)

(3)「子ども・若者調査」の実施

本市の子ども・若者や子育て家庭を対象に、生活状況や生活意識、行政に対する意識等についての調査を行いました。

アンケート実施期間：令和6(2024)年11月22日～令和7(2025)年1月7日

① 現在の悩みや心配ごと(上位5位)

小学5年生

- 1位・・・自然環境のこと(58.6%)
- 2位・・・進学のこと(48.9%)
- 3位・・・就職のこと(44.6%)
- 4位・・・政治や社会のこと(43.5%)
- 5位・・・自分の将来のこと(43.0%)

上記以外の主な選択肢 お金のこと(37.7%) 性格のこと(31.1%)
友人や仲間のこと(28.2%) 容姿のこと(23.4%)

中学2年生

- 1位・・・進学のこと(72.4%)
- 2位・・・勉強のこと(70.0%)
- 3位・・・就職のこと(66.2%)
- 4位・・・仕事のこと(63.9%)
- 5位・・・自分の将来のこと(63.7%)

上記以外の主な選択肢 お金のこと(43.7%) 性格のこと(37.5%)
容姿のこと(36.9%) 友人や仲間のこと(29.2%)

※複数回答

悩みごとの中で「進学」は小学5年生と中学2年生の両方で上位となっています。小学5年生は「進学」の他には、「自然環境」や「政治や社会」などに関心をもっています。中学2年生は「仕事」や「勉強」など、自分の将来に関わる具体的な内容についての関心が高いことが分かります。

② 困ったことや悩みがあったときの相談相手(上位5位)

小学5年生

- 1位・・・父親または母親(58.6%)
- 2位・・・学校の友達・先輩・後輩(38.1%)
- 3位・・・学校の先生(24.6%)
- 4位・・・困ったことや悩みはなかった(19.8%)
- 5位・・・きょうだい(14.1%)

中学2年生

- 1位・・・父親または母親(52.8%)
- 2位・・・学校の友達・先輩・後輩(52.1%)
- 3位・・・学校の先生(21.0%)
- 4位・・・きょうだい(14.6%)
- 5位・・・困ったことや悩みはなかった(14.5%)

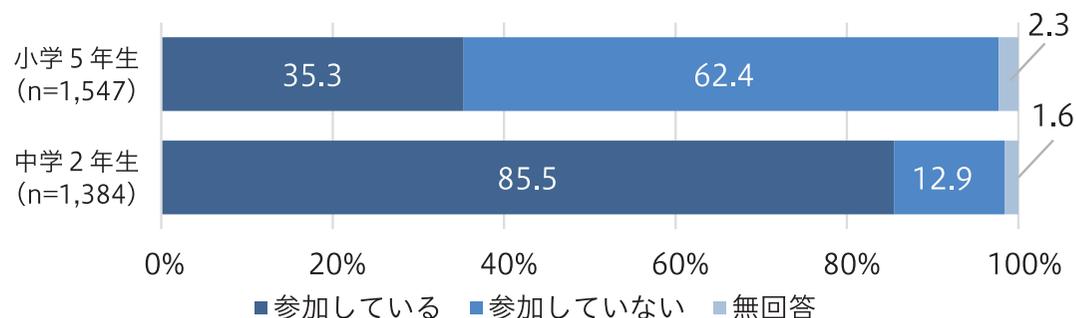
※複数回答

悩みごとの相談相手としては、小学5年生、中学2年生の両方で生活の中で身近である「父親または母親」、「学校の友達・先輩・後輩」、「学校の先生」の順で高くなっています。

4 子ども・若者の“声”を聴く取組(5/7)

(3) 「子ども・若者調査」の実施

③ 地域のスポーツクラブ、文化クラブ、学校の部活動、生徒会活動への参加状況



小学5年生では「参加している」が35.3%、「参加していない」が62.4%となっています。
 中学2年生では「参加している」が85.5%、「参加していない」が12.9%となっています。

④ スポーツクラブ、部活動等へ参加しない理由(上位5位)

小学5年生

- 1位…入りたいクラブ・部活動がないから(50.2%)
- 2位…塾や習い事が忙しいから(39.1%)
- 3位…その他(19.4%)
- 4位…一緒にいる友達がないから(13.6%)
- 5位…費用がかかるから(7.8%)

中学2年生

- 1位…入りたいクラブ・部活動がないから(47.2%)
- 2位…その他(34.3%)
- 3位…塾や習い事が忙しいから(21.3%)
- 4位…費用がかかるから(7.9%)
- 5位…一緒にいる友達がないから(6.7%)

※複数回答

③において、スポーツクラブ、部活動等へ参加していない方に、その理由を複数回答で聞いたところ、小学5年生、中学2年生の両者で、「入りたいクラブ・部活動がないから」が最も高くなっています。

小学5年生については、次いで「塾や習い事が忙しいから」が39.1%、「一緒にいる友達がないから」が13.6%となっています。

中学2年生については、次いで「その他」34.3%、「塾や習い事が忙しいから」21.3%となっています。

※小学5年生の「その他」

「よくわからないから」、「何のクラブがあるかわからない」、「緊張する」、「あることを知らなかった」、「興味がない」、「知らない人が多いから」、「遊ぶ時間が減ってしまうから」、「入り方が分からない」、「一人では行動できない」、「面倒だから」など

※中学2年生の「その他」

「(部活動などを)やめたから」、「学校に行っていないから」、「面倒だから」、「面白くないから」など

4 子ども・若者の“声”を聴く取組(6/7)

(3)「子ども・若者調査」の実施

⑤若者が仕事を選ぶ際に重要だと思うこと

1位・・・就業先の雰囲気・社風・人間関係がよい(97.5%)

2位・・・残業が少ない・休みがとりやすいなどワークライフバランスが取れる(93.7%)

3位・・・福利厚生が充実している(92.3%)

4位・・・安定して長く続けられる(91.2%)

5位・・・高収入である(90.8%)

※複数回答

若者が仕事を選ぶ際に重要だと思うことは、「就業先の雰囲気・社風・人間関係がよい」が97.5%で最も高く、次いで「残業が少ない・休みがとりやすいなどワークライフバランスが取れる」が93.7%、「福利厚生が充実している」が92.3%と続いています。

子ども・若者調査の詳細は川崎市ホームページをご覧ください。(URL:<https://www.city.kawasaki.jp/450/page/0000131033.html>)

4 子ども・若者の“声”を聴く取組(7/7)

(4) 若者世代とのグループトーク

市内の大学やソーシャルデザインセンターに協力いただき、大学生やソーシャルデザインセンターに所属する若い世代の、結婚、子育て、ライフプランやまちづくりに対する意識を知るため、グループトークを令和7(2025)年9月～10月に行いました。

川崎市青少年フェスティバル実行委員会：9月18日(木) 8名 多摩区ソーシャルデザインセンター：9月26日(金) 12名
川崎市「二十歳を祝うつどい」サポーター：10月7日(火) 9名 田園調布学園大学：10月28日(火) 9名



① 学校や家庭以外で小学生から高校生の時に嬉しかったこと・よかったと感じたことは何ですか？(意見の一部抜粋)

- 住んでいるマンションで、近所のおじいちゃんが、エレベーター等で「頑張ってるね！」「お帰り！」って帰りの度に声をかけてくれたのがすごく嬉しかったな～。
- 小学生のとき、地域のスポーツチームに所属していて、自治会等のお祭りに参加して楽しかった。今でもまちで自治会の人を見かけるとホッとする！
- 子ども会では年齢の違う子どもたちとの交流があって、中学生・高校生が一緒になって小学生の面倒を見るというところがよかったと思う。
- 小学生のとき、公園で大人数で鬼ごっこをして遊んだりして、ずっとこの関係が続けばいいのに！って。
- 習い事でダンスをやっていて、子ども文化センターの集会室を使っていたんだけど、始まる前とかに友達とセンターで遊んで楽しかった！
- 塾が1つの居場所となっていて、勉強が辛いとは思わなかった。塾の先生に進路の相談をしたときに、先生の実体験を色々教えてもらった。自分の意見を否定をせずに肯定してくれる先生で、出会えて本当に良かった。

② 結婚・子どもを持つことについてどんなイメージを持っていますか？(意見の一部抜粋)

- 結婚はお互いを認め合えるパートナーというイメージ。
- 小さいころからお母さんになりたいと思っていた。兄弟にも囲まれて育てて楽しかったから、早く結婚したい！結婚式をしてみたい！ウエディングドレスを着てみたい！
- 仕事やキャリアなどを考えると不安…。出産のタイミングも大切なのかな…。
- 結婚について誰かから話を聞くチャンスもないからイメージが沸かないし、結婚願望がそもそもない。今の時代、結婚しないという選択肢もあると思う。縁があったらしたいくらいの認識。
- 他人の子どもはかわいいと思うし、子どもは好きだけど、自分がいざ子育てするとすると不安。大変そう。
- 子どもは、自分にお金と時間など余裕があるときがいい。
- スーパーのバイト、ボランティアなどで子どもたち、親子、家族を見かけたり、関わる中で、家庭を持つのっていいな～と思う。
- 誰かと一緒にいたいけど、結婚をしなくてもシェアハウスとか別の方法が増えている。友達と老後でもいいかなと思う。



③ ②でのイメージを持ったうえでどういうまちだったら結婚や子どもを持つことについてチャレンジできそうですか？(意見の一部抜粋)

- 実際、家事や育児への労力がかかると思うから、状況に応じて両方手伝ってほしい。
- 周りの人たちの見守りとか応援の雰囲気とか環境も大事だと思う。
- 地域交流イベントがたくさんあるといいんじゃないかな。地域の人との関係を深めたい。子育てのやりかた教室とかあるといいと思う。
- 子どもにとって、頼れる、相談できる身近な大人がいるといいよね。子ども文化センターとか夢パークとか、職員の人がいる施設の方が安心する。
- 子どもの権利の普及啓発をもっとしたらいいと思う。みんなが知っている状態がいいよね。
- 自分と家族構成等共通点がある人に相談したり、家の近くに日頃から気軽に相談できる場所がたくさんあるといい。
- 子育てについては、ネットで調べた知識が中心になってしまう。子どもを持つ前に、子育てについて深く知ったり、集まれる機会があると不安が減ると思う。
- 親に対してというより、子どものためにやれることをやってほしい。子どもたちにやさしい取り組み。
- 育児に逃げ道があるといい。一週間くらい子どもを預けることができるとか。子育てから離れる時間があるといいと思う。
- 親子で参加できるプログラムがあると良い。そういうプログラムを行政がやってくれれば安心感がある。
- もう少し里親制度のことを知ってもらった方がいいかも。私は出産はしたくないけど子どもは好きなので里親の選択肢もあるかもしれない。

